

(仮称)多摩都市モノレール 沿線まちづくり方針 (素案)

令和6年11月
武蔵村山市

目 次

■ 第1章 はじめに	1
1 策定の目的.....	2
2 方針の位置付け.....	3
■ 第2章 多摩都市モノレールの延伸計画	5
1 多摩都市モノレールの延伸（上北台～箱根ヶ崎）計画.....	6
2 新駅の概要.....	7
■ 第3章 沿線の現況	15
1 沿線の概要.....	16
2 沿線の現況.....	17
3 沿線の特徴.....	29
■ 第4章 沿線のまちづくりに求められること	31
1 上位計画等における位置付け.....	32
2 社会情勢.....	38
3 市民等の声.....	40
■ 第5章 沿線の将来像とまちづくりの方針	51
1 第5章の構成.....	53
2 沿線の将来像.....	54
3 沿線におけるまちづくりの方針.....	56
4 沿線のまちづくり.....	58
5 各駅周辺のまちづくり.....	67
■ 第6章 まちづくりの進め方	93
1 モノレール延伸部の開業時期を見据えたまちづくり.....	94
2 協働によるまちづくり.....	95

第1章

はじめに

1 策定の目的

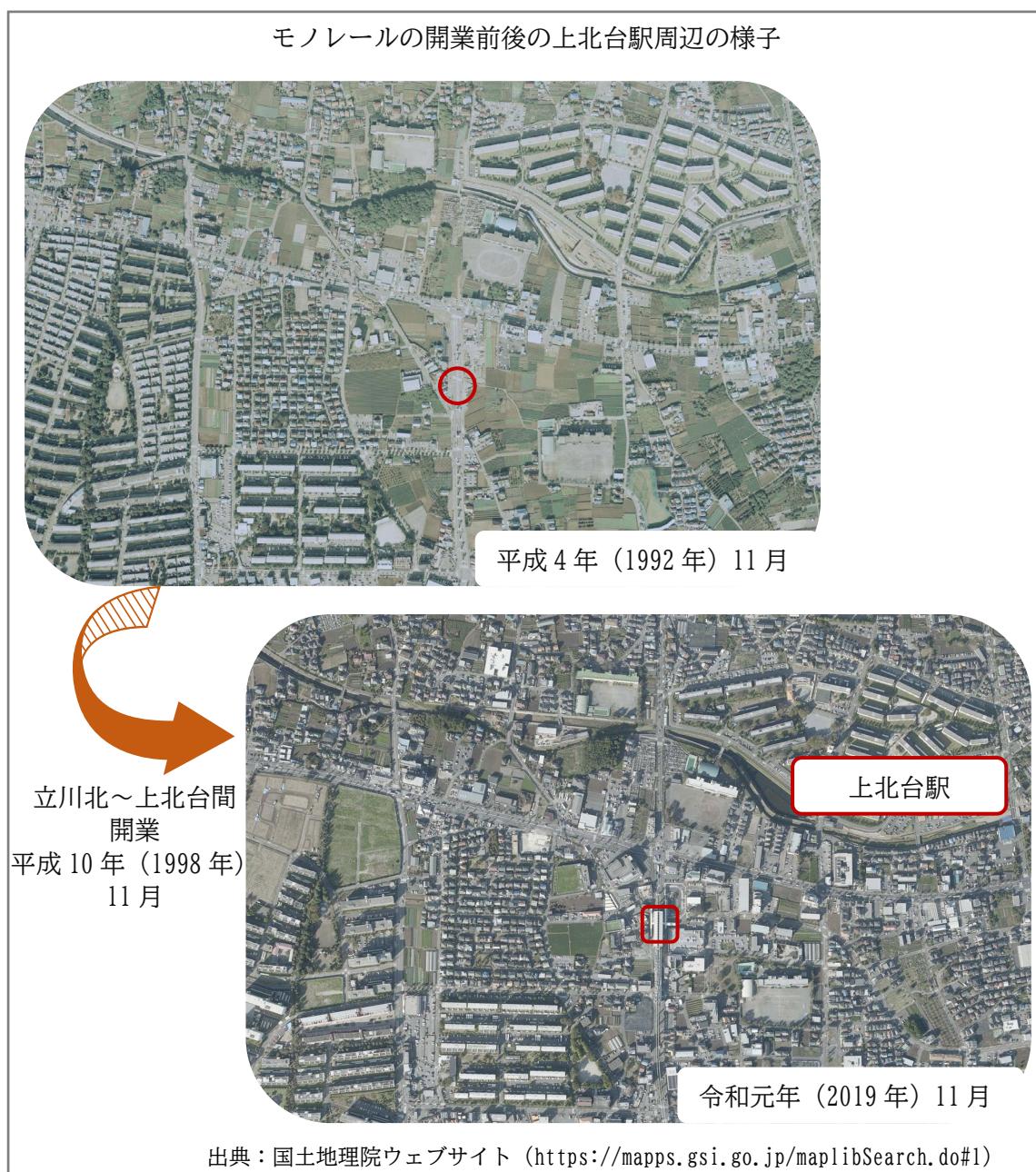
令和4年10月、多摩都市モノレールの延伸（上北台～箱根ヶ崎）計画について、都市計画等の手続が開始され、駅の整備予定位置などが公表されました。

多摩都市モノレールの延伸は、本市が大きく発展する絶好の機会であることから、延伸を見据えて積極的かつ計画的にまちづくりを進めていくことが必要です。

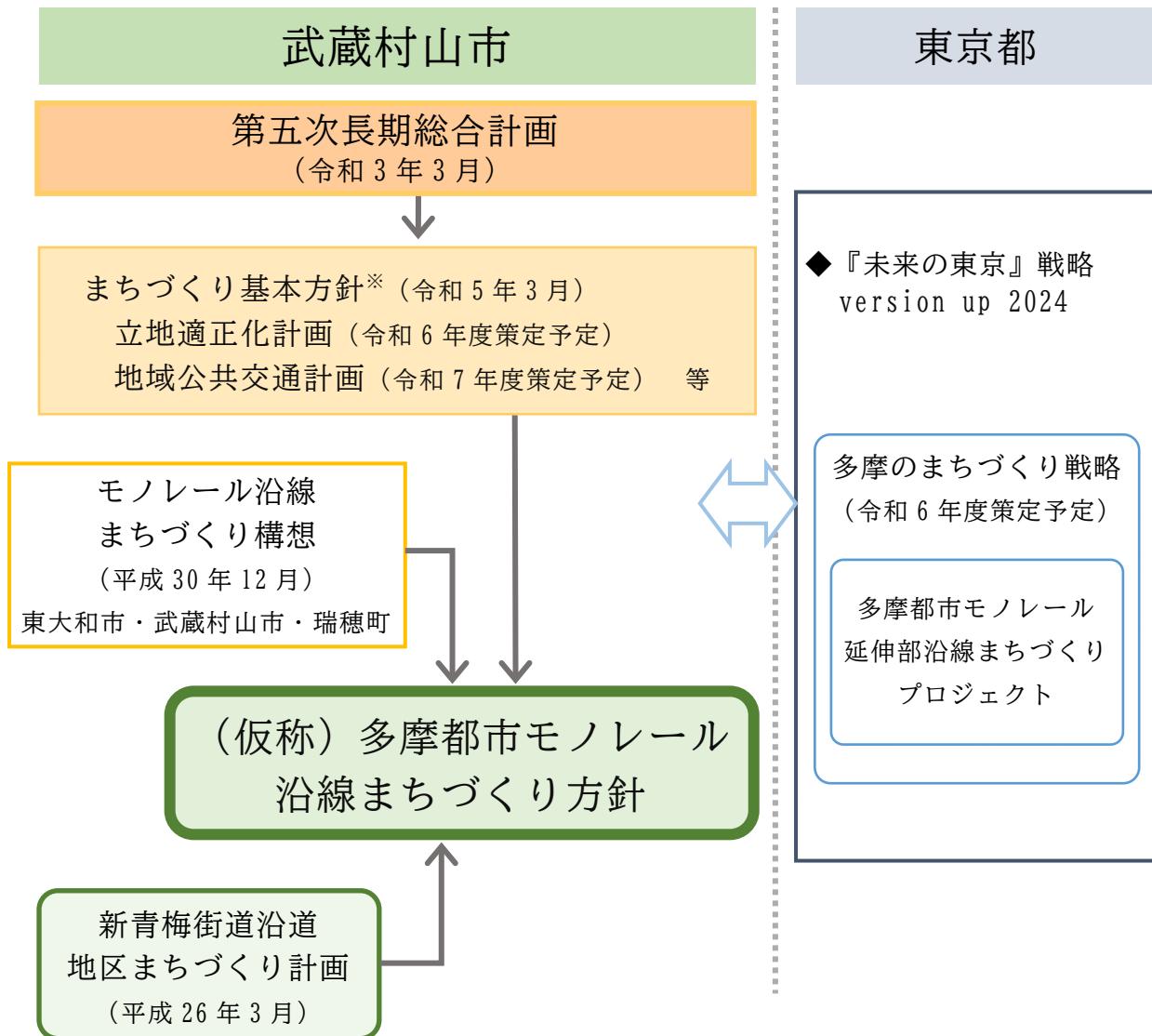
ただし、まちづくりは、担い手である市民、事業者等及び市の協働でなければ進めることができません。

のことから、沿線の将来像やまちづくりの方針等を明確にし、担い手間で共有するとともに、計画的にまちづくりを進めていくことを目的として、「（仮称）多摩都市モノレール沿線まちづくり方針」（以下「本方針」という。）を策定します。

なお、本方針において、「沿線」は新駅が最寄り駅となる地域全体とし、新青梅街道からおおむね1kmの範囲とします。また、「駅周辺」は新駅を中心としたおおむね500mの範囲とします。



2 方針の位置付け



第1章

第2章

多摩都市モノレールの延伸計画

第2章

1 多摩都市モノレールの延伸(上北台～箱根ヶ崎)計画

多摩都市モノレールの延伸(上北台～箱根ヶ崎)計画は、上北台駅が位置する東大和市上北台一丁目から、武蔵村山市内を通過し、JR箱根ヶ崎駅が位置する西多摩郡瑞穂町大字箱根ヶ崎までの約7.0kmの区間を延長するものです。沿線には7つの駅が計画されており、本市には(仮称)No.1駅～(仮称)No.5駅の5つの駅の整備が計画されています。

この計画の実施により、多摩センター駅からJR箱根ヶ崎駅までが繋がり、多摩地域の公共交通ネットワークが強化されることで、多摩地域のアクセス利便性の向上が図られるとともに、沿線だけでなく多摩地域全体の活力や魅力の向上などが期待されます。

なお、本延伸の計画は、2030年代半ばの開業を目指して進められています。

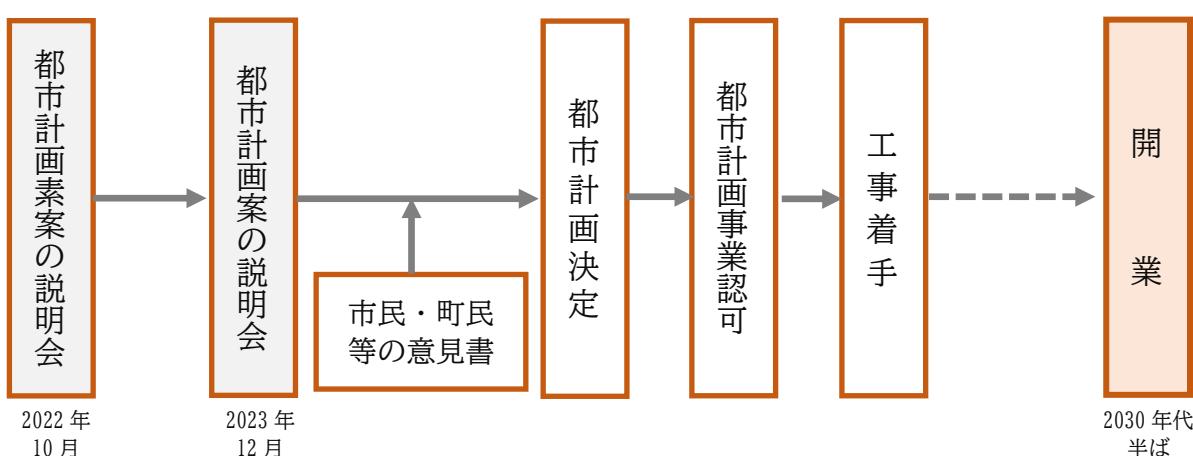
■多摩都市モノレール延伸の計画区間及び新駅計画位置



出典：東京都資料

※駅名について、本方針では以降「(仮称)」を省略して表記します。(例：(仮称)No.1駅⇒No.1駅)

多摩都市モノレール延伸部開業までのスケジュール



2 新駅の概要

各駅の概要は、以下のとおりです。（多摩都市モノレール延伸関連の都市計画案より）

(1) No.1駅

No.1駅は、東大和市との境に位置し、都営村山団地の北側に位置します。

また、当駅の南側には駅前広場を整備する予定です。



No.1駅駅前広場



第2章

(2) No.2駅

No.2駅は、村山医療センター北交差点の東側に位置します。



将来のイメージ

出典：環境影響評価書案（東京都・多摩都市モノレール株式会社）

(3) No.3駅

No.3駅は、本町一丁目交差点と三本榎交差点の間に位置します。

また、当駅の南側には駅前広場を整備する予定です。



第2章

(4) No.4駅

No.4駅は、三ツ木交差点の西側に位置します。



将来のイメージ

出典：環境影響評価書案（東京都・多摩都市モノレール株式会社）

(5) No.5駅

No.5駅は、武蔵村山高校北交差点と青岸橋の間に位置します。



将来のイメージ

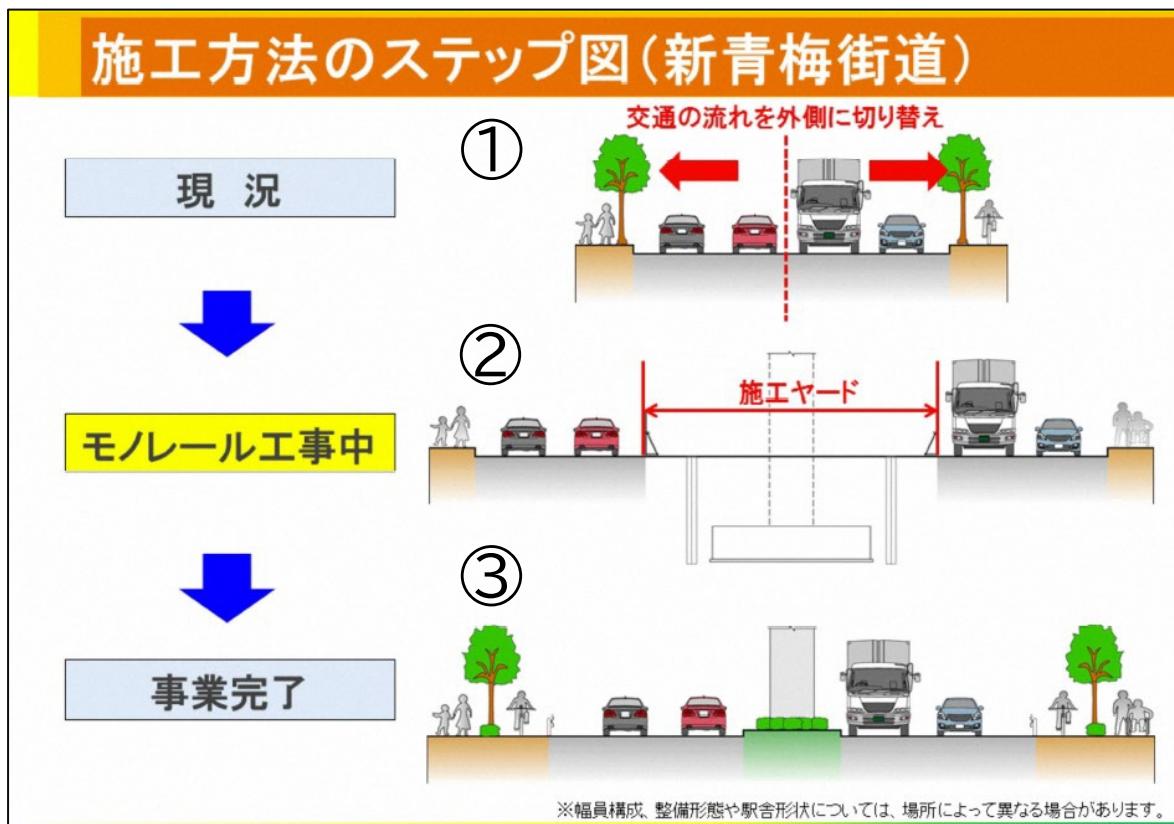
出典：環境影響評価書案（東京都・多摩都市モノレール株式会社）

第2章

■施工方法のステップ図

新青梅街道の施工方法は、次のとおりです。

- ① 用地が一定程度、連続して確保できた区間から順次水管や下水管などの埋設移設を行います。
- ② 次に、現況道路の上下線の交通の流れを外側に切り替えます。
その後、中央部分に施工ヤードを設置しモノレールの工事を行います。
- ③ モノレール整備後、交通の流れを中央寄りに戻し、車道及び歩道などを整備するとともに、電線共同溝を整備し、無電柱化します。



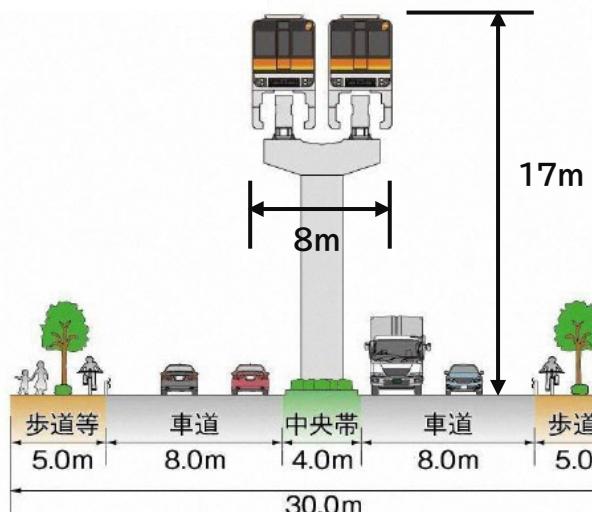
出典：東京都資料

■断面図(武蔵村山市内)

標準部

- モノレールの幅は8メートル、高さは17メートルです。
- 新青梅街道については、道路中央部にモノレールの支柱を設置する計画で、駅部以外の区間では、道路の幅員が幅員30メートルになります。

- 立川都市計画道路3・2・4号新青梅街道線



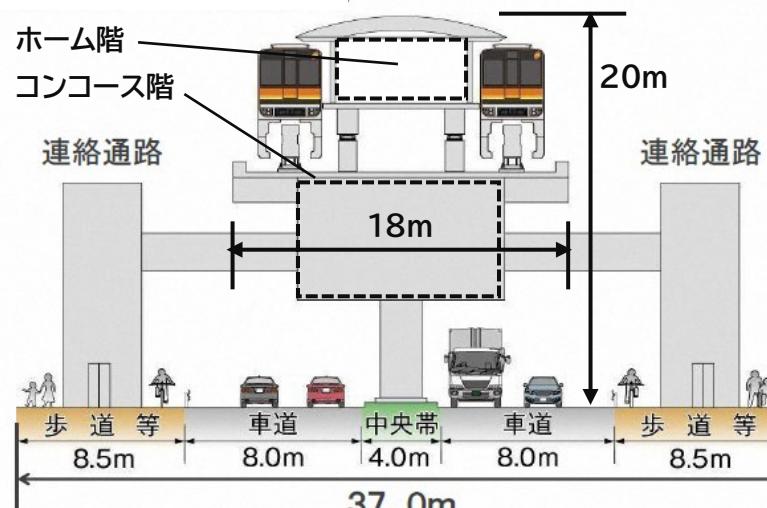
※幅員構成、整備形態や駅舎形状については、場所によって異なる場合があります。

出典：東京都資料

駅部

- 駅部は、改札があるコンコース階の上に、モノレールに乗車するホーム階がある二層式の駅舎としています。
- ホームの形状は、駅舎中央にホームのある島式ホームとしています。
- 駅舎の幅は18メートル、高さは20メートルです。
- No.3駅は南側の連絡通路を駅前広場に接続する予定であるため、一部異なります。

- 立川都市計画道路3・2・4号新青梅街道線



※幅員構成、整備形態や駅舎形状については、場所によって異なる場合があります。

出典：東京都資料

第2章

第3章

沿線の現況

第3章

1 沿線の概要

(1) 市の位置と地勢

本市は、東京都のほぼ中央北部に位置し、立川市、東大和市、福生市、瑞穂町及び埼玉県所沢市に隣接しています。

市域の面積は 15.32 km²で、東西は 5.20km、南北は 4.65km に及びます。

本市を象徴する狭山丘陵は、市街地の中に浮かぶ「緑の島」のように残された首都圏を代表する重要な自然環境です。狭山丘陵のふもとから南へかけて武蔵野台地が広がり、市街地と畠（茶、野菜、果樹園など）が多くみられ、田は丘陵の谷合にわずかに見られます。

また、市内には残堀川と空堀川の 2 本の一級河川が流れています。

(2) 沿革

昭和 37 年にプリンス自動車工業（現日産自動車）村山工場が操業をはじめ、三ツ藤住宅や都営村山団地の建設等により人口が急増し、「農業と織物のまち」から「ベッドタウン」へと変化しました。この人口増加に伴って、昭和 45 年 11 月 3 日、市制施行により「武蔵村山市」が誕生しました。

市制施行後は、昭和 52 年に現在の市庁舎が完成し、昭和 55 年の市制施行 10 周年には武蔵村山市民憲章を制定しました。また、この年には市民の足として欠かすことのできない市内循環バスの運行を開始しました。

平成 13 年 3 月には、日産自動車村山工場全体が閉鎖され、平成 18 年に工場跡地に大規模商業施設が開業しました。

令和 2 年 11 月 3 日には、市制施行 50 周年を迎えました。

(3) 多摩都市モノレール沿線(新青梅街道沿道)の概要

新青梅街道は、新宿区と瑞穂町箱根ヶ崎を結び、多摩地域の東西方向の広域的な骨格幹線道路として位置付けられ、本市においても、中心部を東西に横断する主要幹線道路です。

北側には、狭山丘陵、多摩湖や狭山湖、野山北・六道山公園、中藤公園などの緑地資源が分布し、自然環境に恵まれています。

新青梅街道の沿道には、沿道サービス型の商業・業務施設が多く立地していますが、畠や果樹園などの農地も多く残されています。

沿線には、都営村山団地、三ツ藤住宅及びグリーンタウン武蔵村山などの住宅団地や大型商業施設などが立地しています。

また、武蔵村山市役所、市民会館、小中学校及び都立武蔵村山高校などの公共施設等が立地しています。

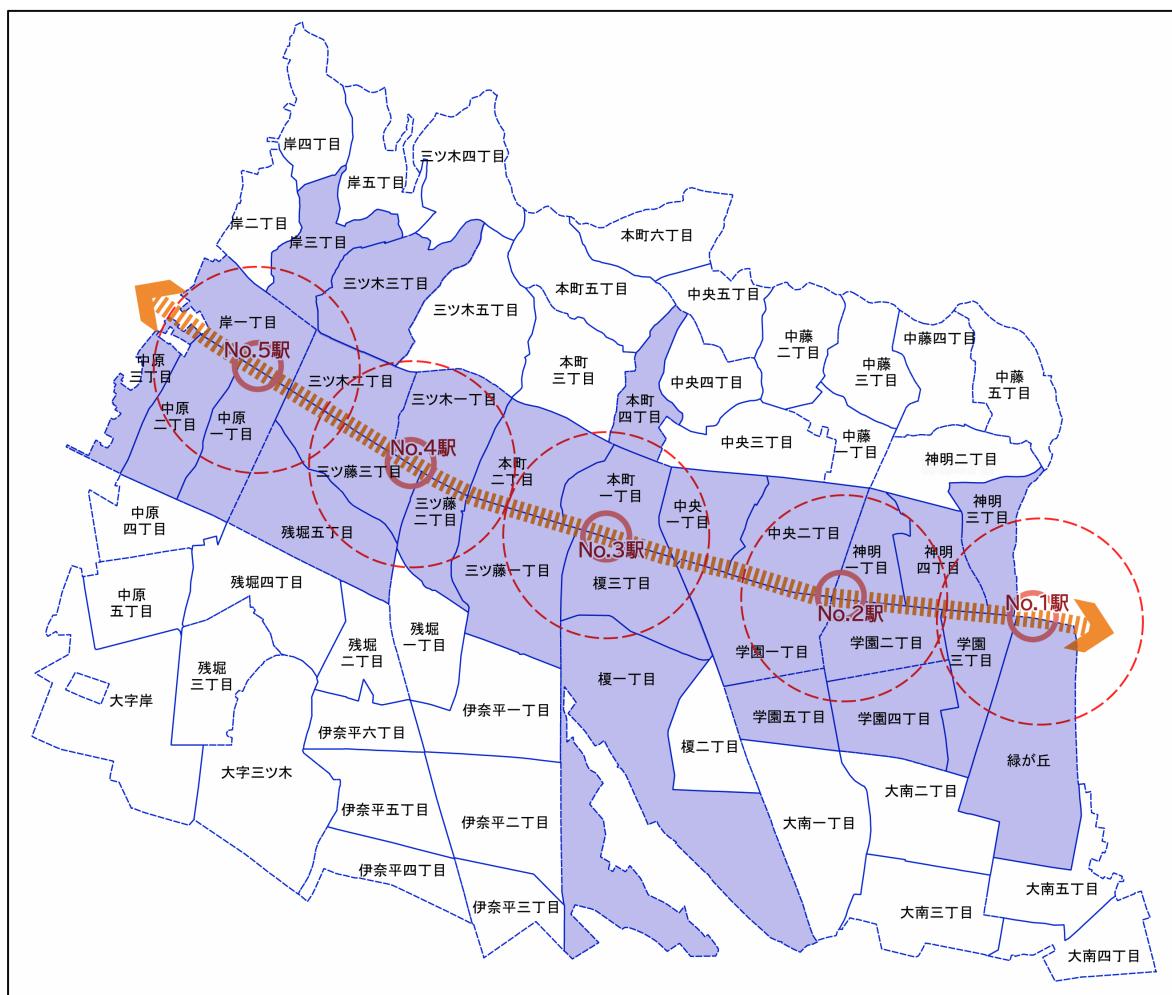
2 沿線の現況

本市の沿線の現況を把握する上で、調査の対象範囲は市全体と多摩都市モノレール新駅の中心から半径 500m 円内に該当するエリアとしました。

※人口や土地利用等の町丁目ごとに数値が管理されているものに関しては、これによらず、町丁境を基準にしています。

- ・半径 500m の円内に含まれる町丁目は、以下のとおりです。

No.1 駅：緑が丘、学園三丁目、神明三・四丁目
 No.2 駅：学園一・二・四・五丁目、中央二丁目、神明一・四丁目
 No.3 駅：榎一・三丁目、三ツ藤一丁目、本町一・二・四丁目、中央一丁目
 No.4 駅：三ツ木一・二丁目、三ツ藤一・二・三丁目、残堀五丁目、本町二丁目¹
 No.5 駅：三ツ木二・三丁目、岸一・三丁目、中原一・二・三丁目、三ツ藤三丁目、
 残堀五丁目



第3章

(1) 人口・世帯数等の動向

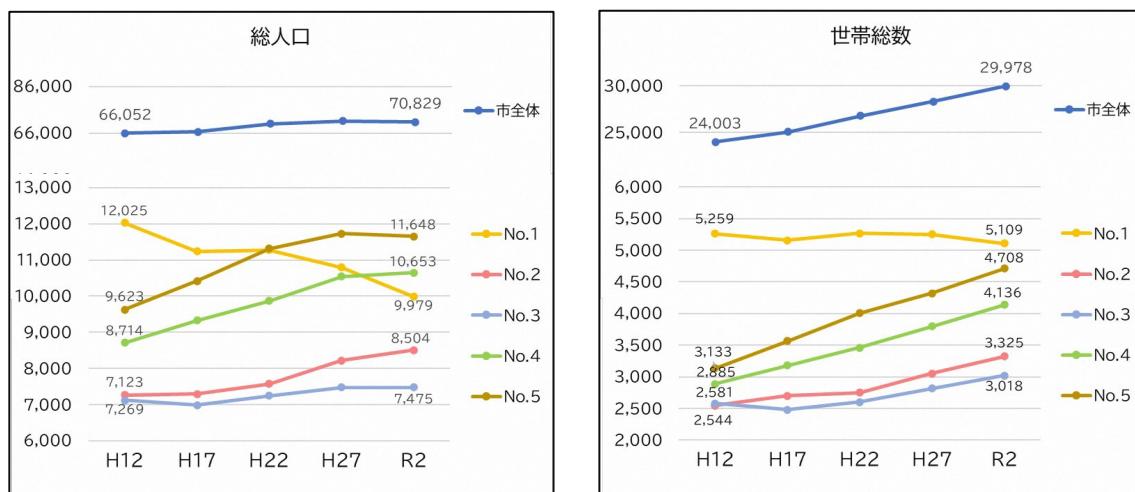
ア 人口及び世帯数

市全体では、総人口は平成 27 年まで増加傾向でしたが、令和 2 年は減少に転じています。世帯総数は増加傾向ですが、1 世帯当たりの人数は減少しています。

新駅予定地周辺については、総人口は No. 2 駅、No. 3 駅、No. 4 駅周辺は増加傾向ですが、No. 1 駅周辺は減少傾向にあり、No. 5 駅周辺は令和 2 年から減少に転じています。

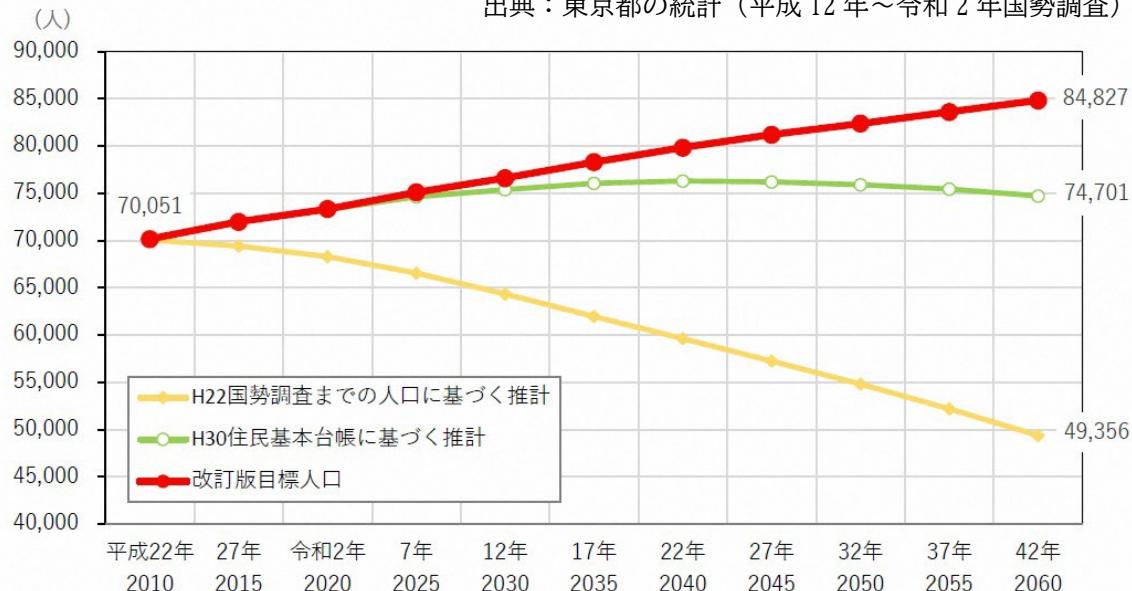
世帯数は No. 1 駅周辺では減少していますが、それ以外は増加しています。1 世帯当たりの人数は全駅周辺で減少しています。

なお、住民基本台帳による推計、国勢調査による推計いずれも、令和 42 (2060) 年時点では減少するものと予測されていますが、「第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、「出生率向上・出生者数の増加」、「若者の転出抑制」、「子育て世代の転入促進」を行うことにより、令和 42 年 (2060) 年時点の人口を 85,000 人とすることを目標としています。



総人口・世帯総数

出典：東京都の統計（平成 12 年～令和 2 年国勢調査）

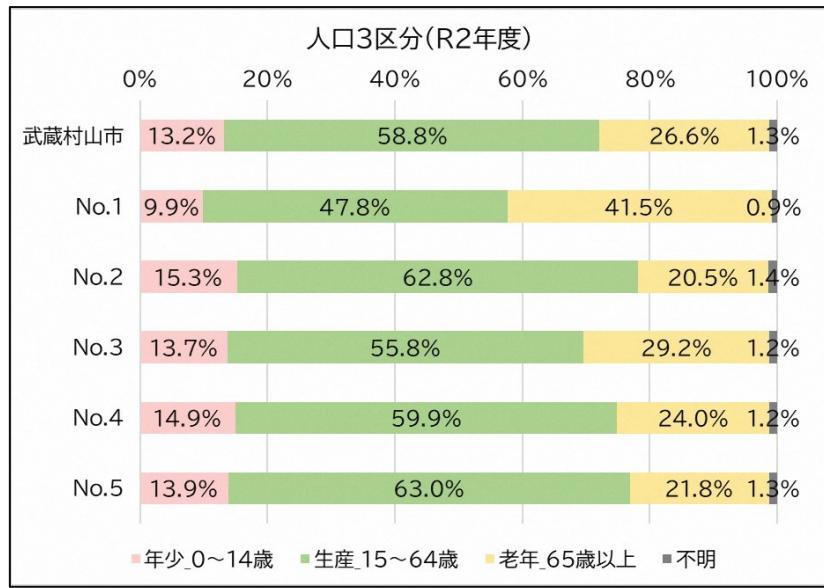


人口推計と目標人口

出典：武蔵村山市第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和 2 年度～令和 6 年度）

イ 人口3区分

人口3区分の令和2年度の割合をみると、No.1駅周辺では65歳以上の人口が約4割を占め、他駅と比較して高齢化が進んでいます。No.2駅、No.5駅周辺では、生産年齢の割合が大きくなっています。



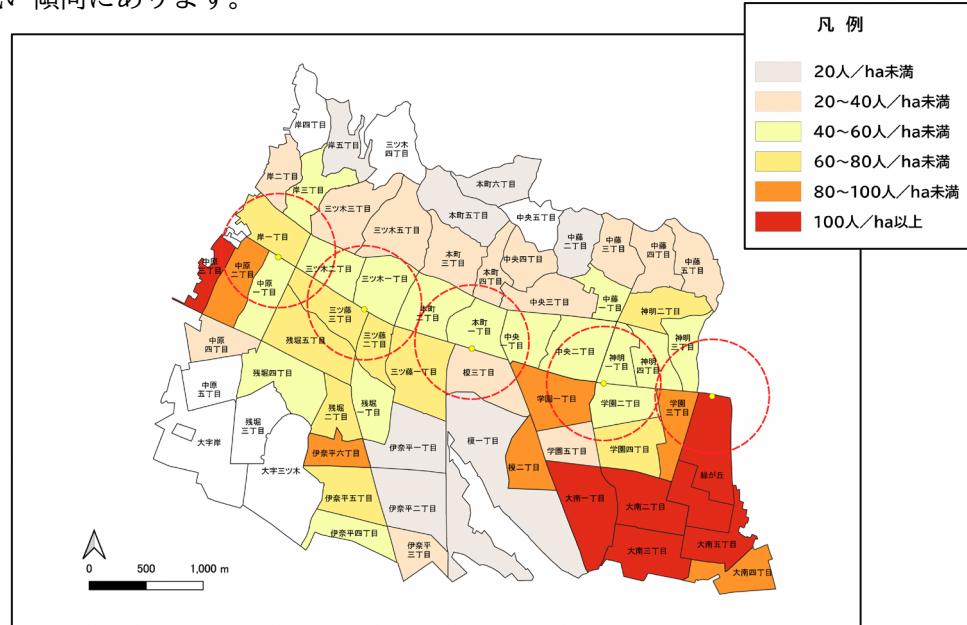
人口3区分グラフ

出典：東京都の統計（令和2年国勢調査）

ウ 人口密度

一部の町丁目を除き、市内的人口密度はおおむね40人/ha以上となっており、特に緑が丘、大南一・二・三・五丁目、中原三丁目の人口密度は100人/ha以上となっています。

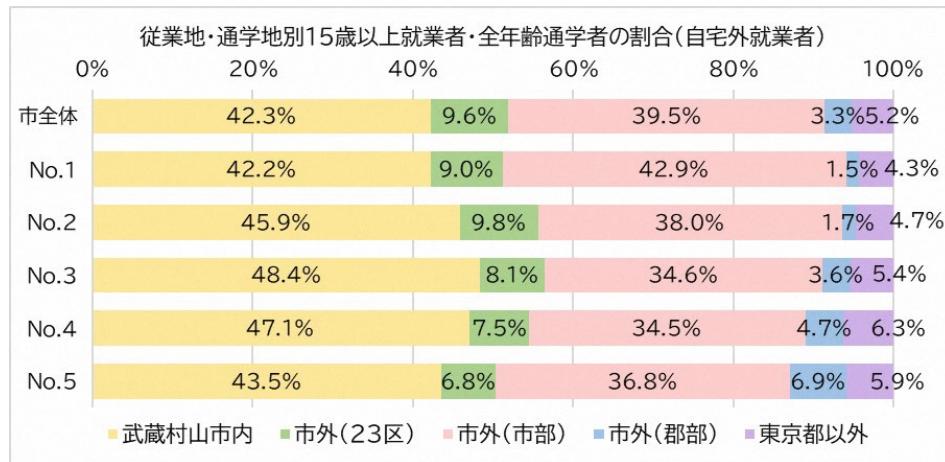
一方、新青梅街道（モノレール沿線）沿いでは40～60人/ha未満のエリアが多く、人口密度が比較的低い傾向にあります。



第3章

工 従業地・通学地による人口・就業状態(自宅外就業者)

自宅外就業者の従業地・通学地をみると、市全体及び各駅周辺ともに市内が4~5割程度、市外(市部)が3~4割程度を占めています。特にNo.1駅周辺では市外(市部)への就業・通学者の割合が高くなっています。

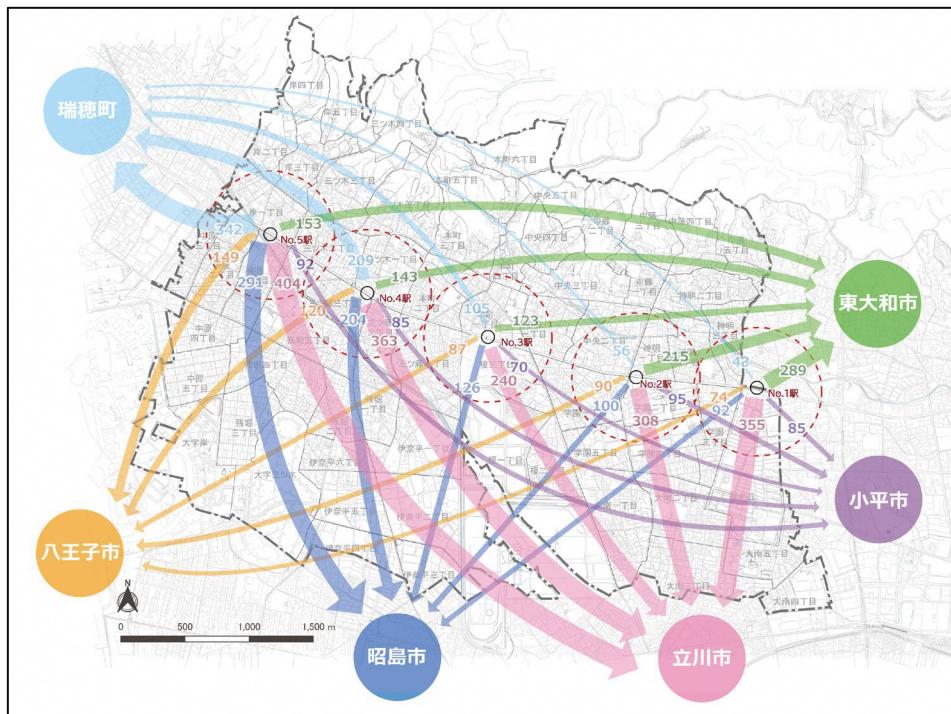


自宅以外の従業地・通学地先の割合

出典：東京都の統計（令和2年国勢調査）

また、多摩地域（市内を除く。）への従業地・通学地先の上位をみると、立川市が最も多く、次いで東大和市となっています。

従業地・通勤地別にみると、立川市へは、No.5駅周辺に住む就業者が最も多く、次いでNo.4、No.1となっています。次に東大和市へはNo.1駅周辺からが最も多く、次いでNo.2駅となっています。昭島市、瑞穂町、八王子市へは、No.5駅周辺からが最も多くなっています。

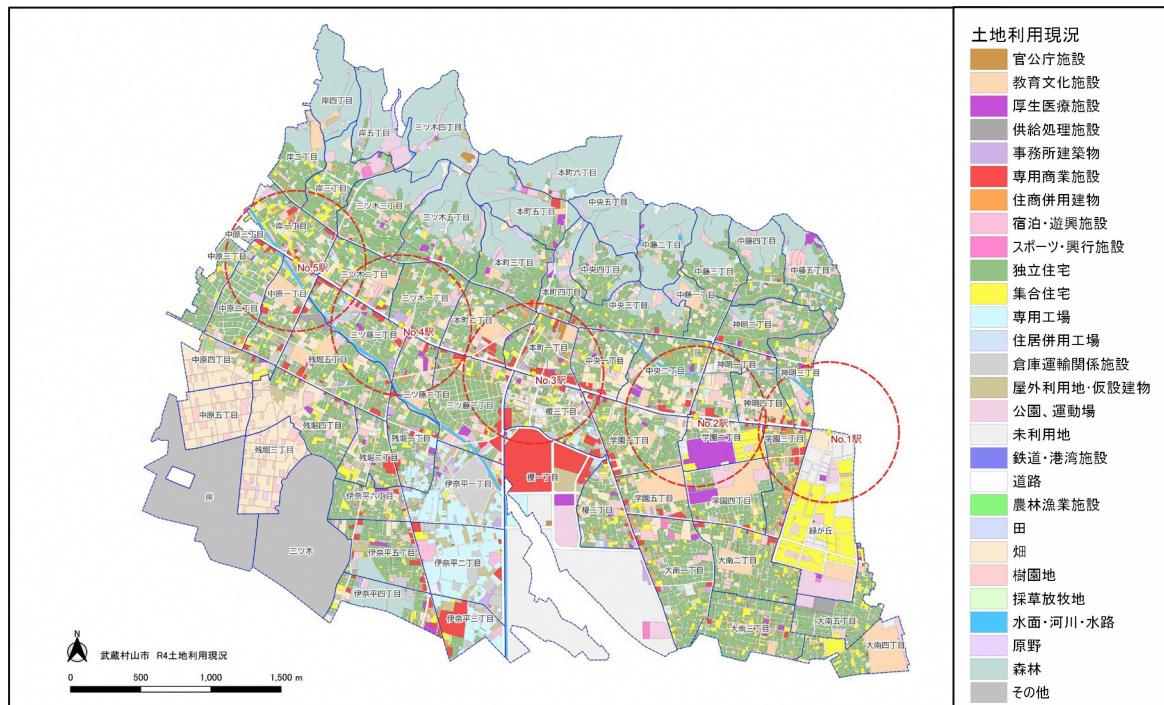


出典：東京都の統計（令和2年国勢調査）

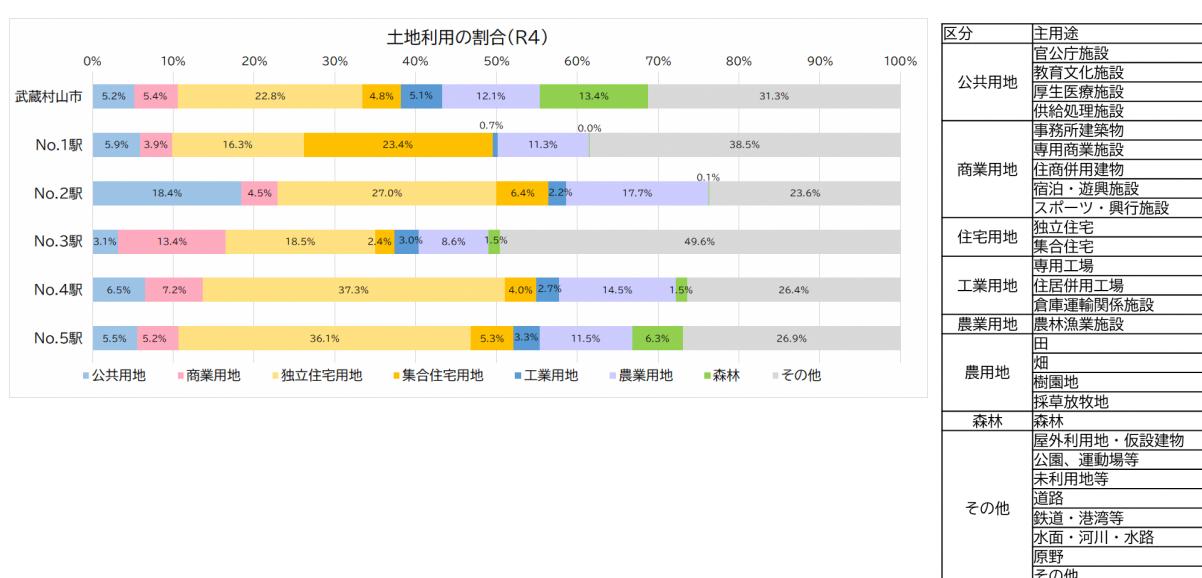
(2) 土地利用の状況

市全体では、北側には狭山丘陵の森林が広がりそれ以外は様々な用途が混在する土地利用となっていますが、その中でも独立住宅の土地利用が多くを占めています。

新青梅街道（多摩都市モノレール沿線）沿いに専用商業施設が集積しているほか、榎一丁目には大規模な商業施設が立地しています。畠や樹園地は市内各地でみられるほか、市南西部には大規模農地（多摩開墾）が存在します。



各駅周辺の土地利用の割合をみると、No.4駅、No.5駅では独立住宅用地、No.3駅では商業用地、No.2駅では公共用地、No.1駅では集合住宅用地の割合が多くなっています。



第3章

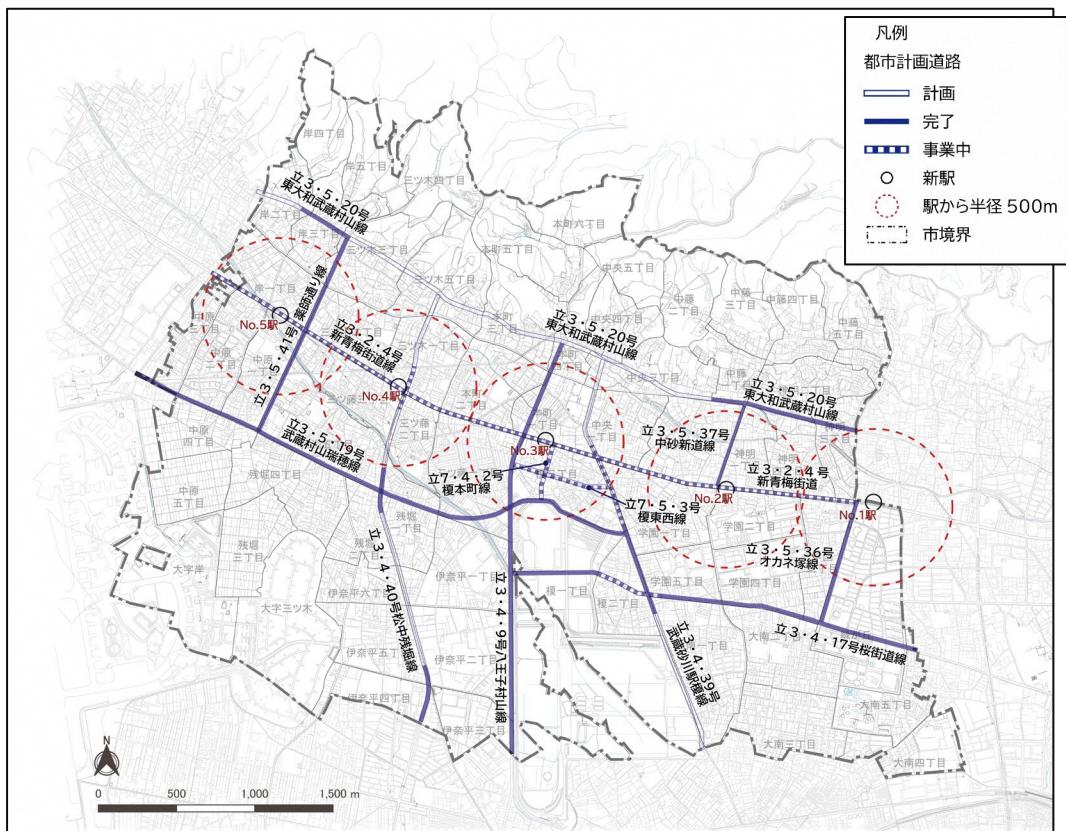
(3) 道路・交通

ア 都市計画道路の整備状況

都市計画道路は、全12路線、市内延長26,718m、うち完成延長13,819m、完成率51.7%となっています。

立3・2・4号新青梅街道線は、幅員18mでは整備済みであり、現在、幅員30mとして拡幅整備事業を行っています。

各駅周辺においては、立3・4・39号武蔵砂川駅樋線他3路線が事業中です。



都市計画道路整備状況図

＜都市計画道路の整備状況＞

令和4年4月1日現在

路線名	幅員 (m)	市内延長 (m)	完成延長 (m)	完成率 (%)
立3・2・4号 新青梅街道線	30 (18)	4,619	0 (4,619)	0.0 (100.0)
立3・4・9号 八王子村山線	16~18	2,630	2,630	100.0
立3・4・17号 桜街道線	12~20	2,680	2,238	83.5
立3・4・39号 武藏砂川駅櫻線	12~16	2,772	658	23.7
立3・4・40号 松中残堀線	16	2,860	676	23.6
立3・5・19号 武藏村山瑞穂線	12	3,390	3,390	100.0
立3・5・20号 東大和武藏村山線	12	4,077	1,497	36.7
立3・5・36号 才カネ塚線	16	820	820	100.0
立3・5・37号 中砂新道線	12	530	530	100.0
立3・5・41号 薬師通り線	12	1,380	1,380	100.0
立7・4・2号 櫻本町線	16~18	340	0	0.0
立7・5・3号 櫻東西線	14	620	0	0.0
全12路線合計		26,718	13,819	51.7

出典：都市計画課資料

注：立川都市計画道路

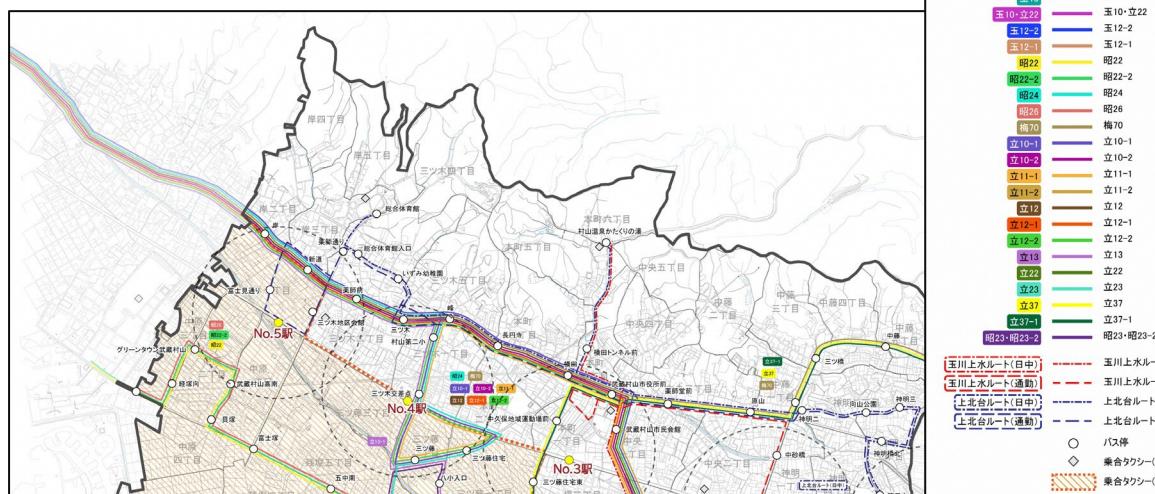
完成延長は供用開始遅み延長を指す。

イ 交通

軌道交通がないことから、市内には立川駅及び昭島駅等の鉄道駅へ向かう路線バスのネットワークが整備されています。

また、路線バスでカバーされていない地域については、市内循環バス「MMシャトル」を運行しています。

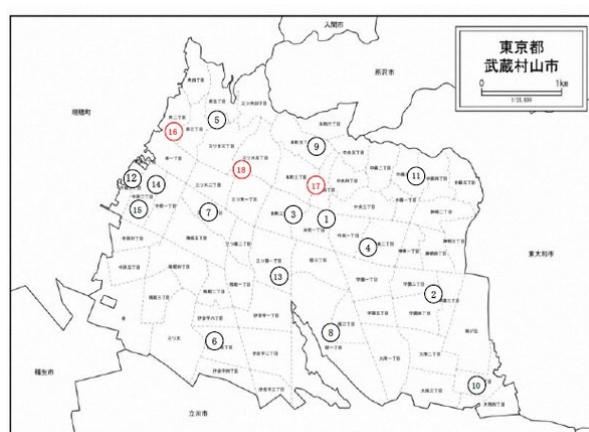
市南西部の市内循環バスを運行していない地域については、乗合タクシー「むらタク」を運行しています。



バス路線図

出典：各運行主体が公表する路線図を基に作成

その他の交通手段としてシェアサイクルの普及が進んでおり、シェアサイクルポートの数が少しずつ増加しています。



公共施設へのポート設置場所（令和5年9月時点）

第3章

(4) 公園・緑地・河川・農地等

ア 公園等の立地

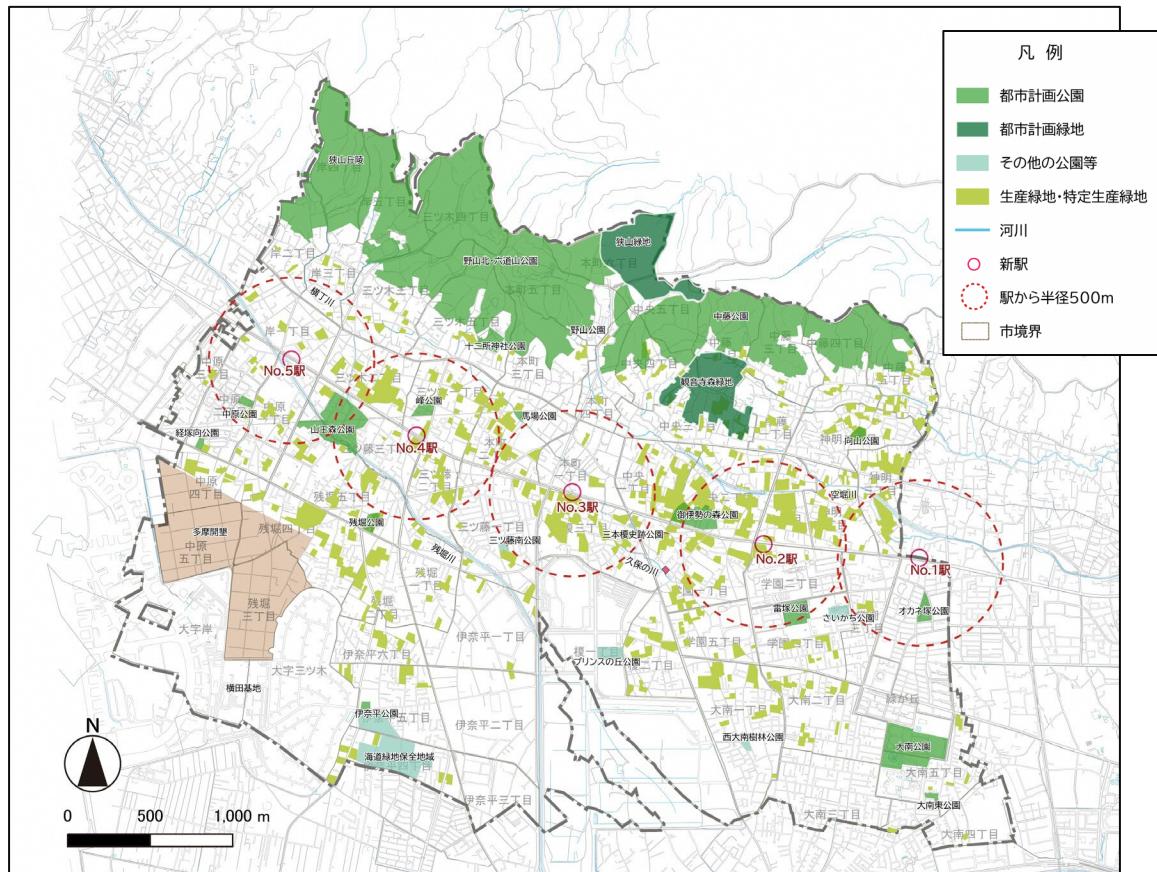
市全体では、大規模な都市計画公園や緑地が、狭山丘陵のある北部に存在するほか、市街地にも都市計画公園が点在しています。生産緑地、特定生産緑地は、市街化区域の全体に分布しています。

市の北部に位置している「狭山丘陵」は、市民の貴重な財産であり、市の第五次長期総合計画やまちづくり基本方針などにおいて保全・活用すべきものと位置付けています。

主要な河川は、残堀川及び空堀川があり、遊歩道や親水空間によって、市民に親しまれています。

No.4駅とNo.5駅に近接している山王森公園は、市街地内のみどりの拠点であり、環境保全、レクリエーション、防災、景観のそれぞれを併せ持つ緑地として整備を推進しています。

No.3駅の周辺では、土地区画整理事業において、市の中心核としてふさわしい「魅力あふれるやすらぎの街」を目指し、5箇所の公園、4箇所のポケットパークが計画されています。



緑地・公園・河川・農地の状況



都立野山北・六道山公園



プリンスの丘公園



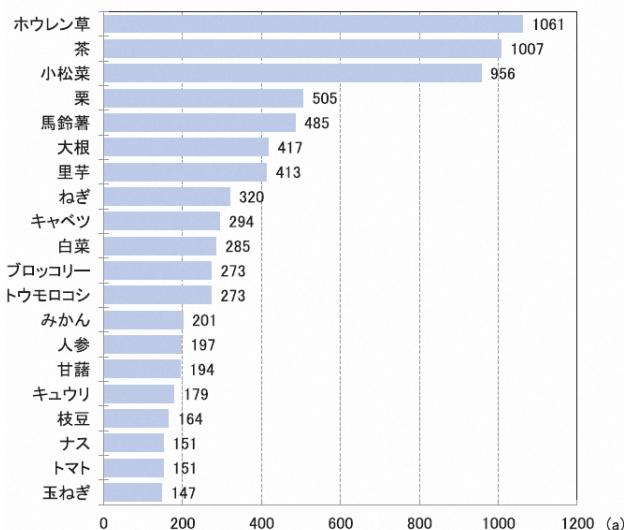
市内の茶畠

イ 農業の現状

市における農業の現状をみると、農業産出額は多摩地域でも上位であり、内訳としてはホウレン草や小松菜等の野菜栽培が多く、お茶やみかん等も生産しています。

また、市内にはいくつかのみかん農家があり、11月頃にはみかん狩りが行われ、他市からの来街者もみられます。

農産物作付面積



出典：武蔵村山市産業振興ビジョン

農業産出額（令和4年度）



出典：市町村別農業産出額（推計）農林水産省



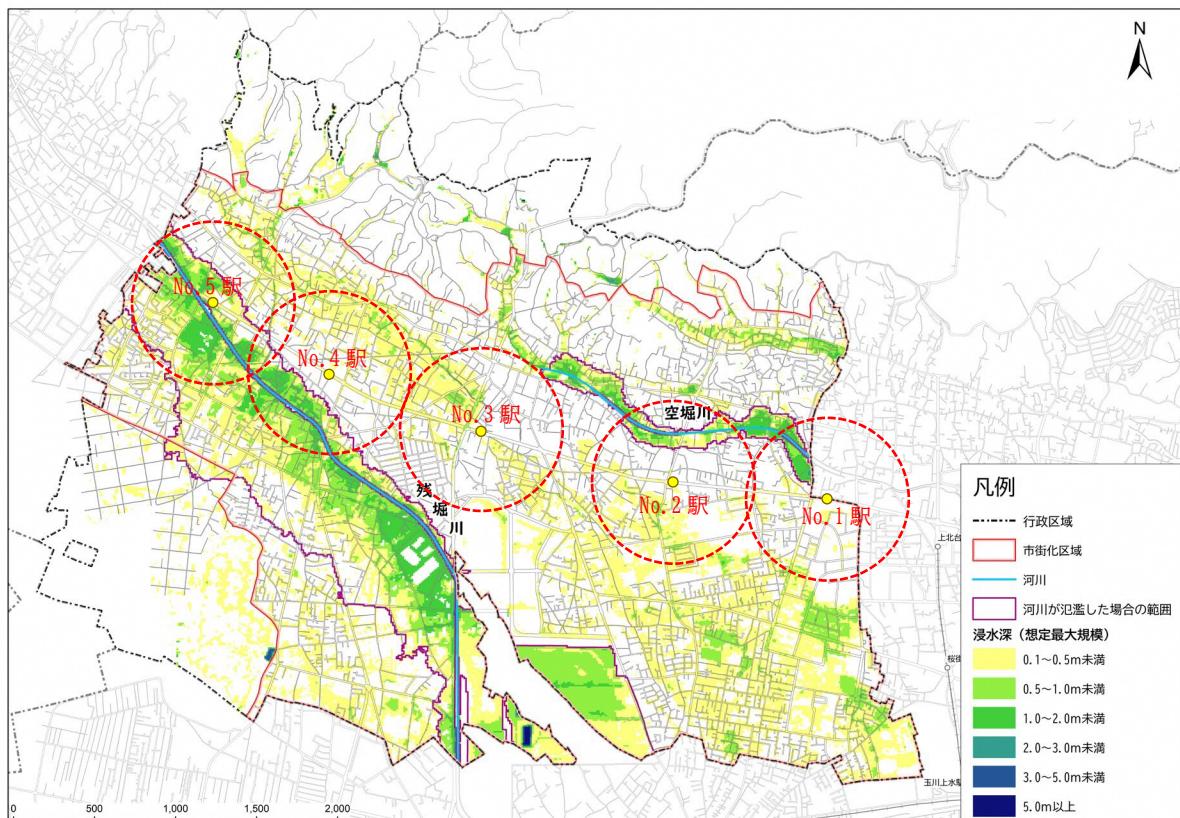
みかん狩りの様子・みかん狩り map (令和4年11月)

(5) 安全・安心

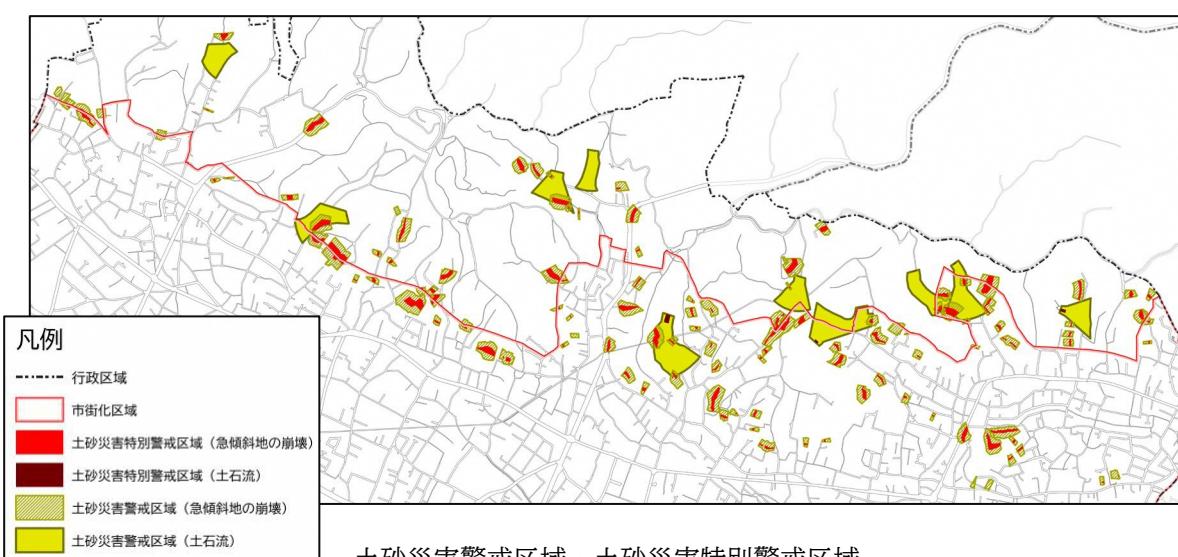
ア 水害・土砂災害

水害・土砂災害の危険性について、本市では空堀川と残堀川が流れており、想定最大規模降雨が発生した場合、その沿川では2m程度の浸水が予想されています。

狭山丘陵が位置している市の北部では、土石流やかけ崩れが発生する危険がある「土砂災害警戒区域」「土砂災害特別警戒区域」が指定されているエリアが多くあります。



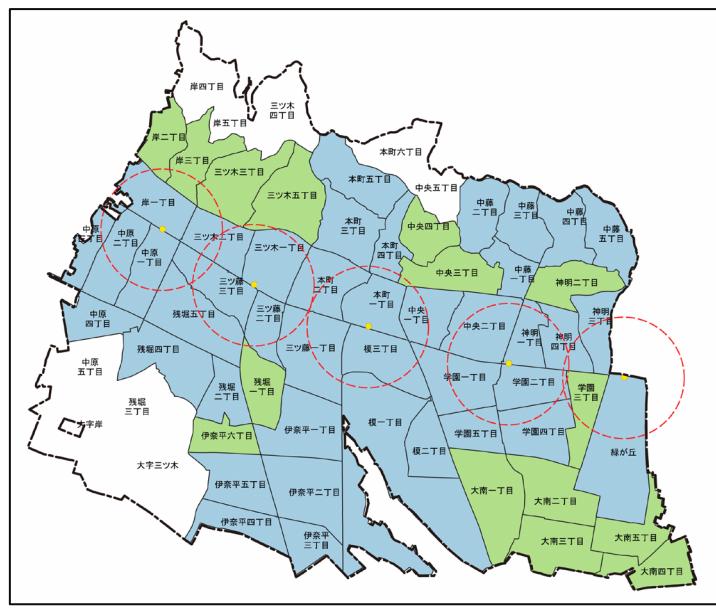
洪水浸水想定区域・内水浸水予想区域



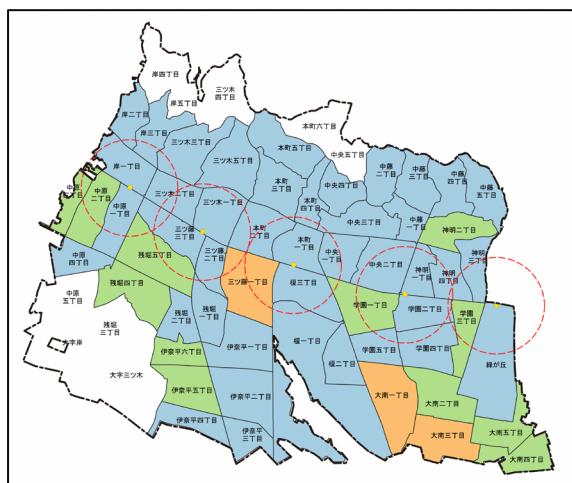
土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域

1 地震危險度

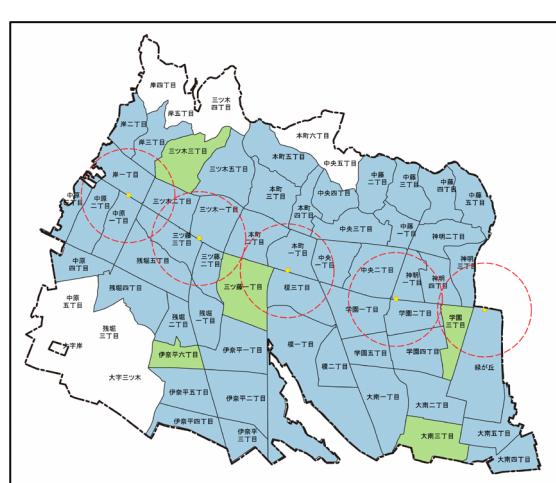
東京都地震危険度をみると、危険度は全体的に低い傾向にあります。火災危険度をみると、No.3駅とNo.4駅周辺に位置する三ツ藤一丁目が高い傾向にありますが、その他は危険度が低くなっています。



総合危険度



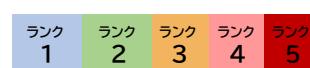
火災危険度



建物倒壊危険度

出典：東京都地震危険度（令和4年度）

危険度が低い ← → 危険度が高い



第3章

(6) 主な地域資源

市内には、多くの地域資源があります。

<p>狹山丘陵</p> <p>狹山丘陵の自然を生かした都立野山北・六道山公園や市立野山北公園は、市内外から多数の来園者があります。</p> 	<p>村山デエダラまつり</p> <p>平成 18 年から毎年秋に、市民と市が一体となってまちを盛り上げる「村山デエダラまつり」が開催されています。</p> 
<p>里山体験エリア(都立野山北・六道山公園内)</p> <p>雑木林・畑・水田・果樹園などと、そこに住む人々の住居が織りなす、自然と人の調和がとれた環境を「里山」と呼び、「民家」を中心に里山文化の学習や体験ができる場所です。民家は、江戸時代の母屋を新築・復元しました。</p>  	<p>野山北公園自転車道</p> <p>野山北公園の自転車道は、昭和初期に当時の東京市が山口貯水池（狭山湖）建設のために敷いた軽便鉄道線の跡です。現在は、横田トンネルなどのトンネル群を通り、市内を西南方向に走る全長約 4km の自転車道として、多くの方々に親しまれています。道沿いには、約 300 本の桜が植えられています。</p> 
<p>特産品（村山かてうどん、村山大島紬など）</p> <p>江戸時代から継承されてきた「村山大島紬」があり、経済産業大臣指定伝統的工芸品及び東京都指定無形文化財となっています。</p> <p>食文化では、地粉を使用して打った麺にかて（地野菜を茹でたもの等）を添えた「村山かてうどん」が市内の複数店で提供されています。</p>  	<p>農産物（東京狭山茶 東京狭山みかん）</p> <p>市内の狭山丘陵の南斜面では、みかんが栽培されています。武蔵村山産のみかんは、甘い中にもちょうどよい酸味があって、全体的に味が濃いのが特徴です。11 月上旬からみかん狩りができます。また、日本三大銘茶の一つ「狭山茶」（東京狭山茶）の産地としても知られており、市内には大小の茶畠が点在しています。</p>  
<p>レトロなトンネル群「軽便鉄道」の線路跡地</p> <p>山口貯水池堰堤建設に使用する資材を運ぶために作られたトンネルです。武蔵村山市は都内で唯一鉄道が通らない市として知られていますが、当時はディーゼル機関車などが資材を載せたナベトロ（トロッコ）を牽引してトンネル内を走っていました。</p> 	<p>大規模農地（多摩開墾）</p> <p>横田基地に面した平場には「多摩開墾」と呼ばれる広大な農地が広がっています。</p> 

3 沿線の特徴

多摩都市モノレール沿線の現況より、主な特徴を整理しました。

- ★ 市の人口は近年減少傾向ですが、多摩都市モノレールの延伸等の利便性の向上等を踏まえ、令和42（2060）年時点の目標人口を約85,000人としています。
- ★ 少子高齢化が進んでおり、No.1駅周辺は特に高齢化率が高くなっています。
- ★ 人口密度は市南東部が高く、新青梅街道の沿道は比較的低くなっています。
- ★ 市民の従業地・通学地は市内が多く、市外は立川市及び東大和市などの近隣市が多くなっています。
- ★ 市内の土地利用は独立住宅が多く、新青梅街道の沿道には専用商業施設が集積しています。
- ★ 都市計画道路は新青梅街道が拡幅事業中であるほか、5つの路線が事業中です。
- ★ 軌道交通がない本市の主な公共交通として、路線バス（都営バス、立川バス、西武バス）が運行されており、路線バスを補完するように市内循環バス「MMシャトル」とデマンド交通「むらタク」を運行しています。
- ★ 市の北部には狭山丘陵があり、自然豊かな景観が広がっています。
- ★ 農地は市全体に分布しており、ホウレン草や小松菜の栽培が盛んです。また、農業産出額は多摩地域で上位となっています。
- ★ 水害は想定最大規模降雨が発生した場合、残堀川及び空堀川の沿川で2m程度の浸水が想定されています。
- ★ 土砂災害は土砂災害警戒区域等に指定されている箇所が市北部に存在しています。
- ★ 地震の危険度は、一部火災危険度の高い地域があるものの全体的には低くなっています。
- ★ 地域資源は村山デエダラまつりや村山かてうどん、多摩開墾など、魅力的な資源が多く存在しています。

第3章

第4章

沿線のまちづくりに求められること

1 上位計画等における位置付け

モノレール沿線まちづくり構想をはじめ、東京都の計画及び市の上位計画等における沿線及び駅周辺の位置付けを整理しました。

(1) モノレール沿線まちづくり構想(平成30年12月)

多摩都市モノレールの延伸後を見据え、地域のポテンシャル（潜在的な力）を最大限に発揮するためのまちづくりの方向性を明らかにすることを目的として、東大和市、瑞穂町及び本市の共同で策定しました。

■沿線の将来像

本構想の策定に当たり、2市1町のまちづくりの基本方針（都市計画マスタープラン）に示されたキーワードなどを基に、モノレール延伸後の沿線の将来像を定めています。

沿線の将来像

これまで同様狭山丘陵がもたらすみどりや潤いと共に存しながら、車に過度に依存せず誰もが便利に移動できることで、快適な暮らしと多様で活発な交流が実現し、持続的に発展するまち

■施策の方向性

「沿線の将来像」等を踏まえ、3つの課題、課題への対応方針及び施策を記載しています。

課題	対応方針	施策（●は重点施策）
交通利便性の向上	交通体系の見直し	●バス路線等の再編
	交通結節機能の充実	○駅前広場・駅前駐輪場の整備
	新駅へのアクセス性向上	○駅アクセスの充実・改善
良好な住環境の形成	商業・公共施設の充実	●駅周辺・沿道の土地の高度利用 ●都市機能の統合、集積・集約 ○モノレール沿線としての魅力向上
	魅力的な住まいの創生	○公有地を活用した住宅整備など ○土地区画整理事業の着実な施行
	自然・緑の保全	○緑地・農地の保全
	多様な人々が来訪する仕組みづくり	●企業や大学などの誘致 ●創業支援の充実 ○公共施設の相互利用
活発な交流の実現	観光施策の充実	●市・町民農園・観光農園・観光農業の充実 ○観光情報の発信など
	来訪者の利便性・快適性の向上	○レンタサイクルの整備など

※各市町の状況・計画や新駅の設置位置などを踏まえ、各施策を実施・検討していきます。

出典：モノレール沿線まちづくり構想

■ 1 交通利便性の向上に関する施策

- (1)バス路線等の再編（重点施策）
 - ◆コミュニティバスをフィーダー路線に再編することで、運行距離が短縮され、定時性の確保や運行便数の増加が期待
- (2)駅前広場・駅前駐輪場の整備
 - ◆駅前広場や駐輪場の整備などにより、交通結節機能が強化され、利用者の利便性が向上
- (3)駅アクセスの充実・改善
 - ◆道路幅員のリメイクなどにより、歩行者・自転車走行空間が改善され、駅へのアクセスの向上

■ 2 良好的な住環境の形成に関する施策

- (1)駅周辺・沿道の土地の高度利用（重点施策）
 - ◆用途地域や容積率の変更により、より高い建物が立地でき、土地の高度利用が促進
- (2)都市機能の統合、集積・集約（重点施策）
 - ◆都市機能を統合、集積・集約することで、生活利便性がより高まり、車に頼らず、歩いて暮らせる住環境が形成
- (3)モノレール沿線としての魅力向上
 - ◆「狭山丘陵に近く、自然に恵まれ、住みやすいまち」としてブランド化・PRすることで、広域的な定住人口の増加が期待
- (4)公有地を活用した住宅整備など
 - ◆公有地を活用した住宅整備や商業施設・生活利便施設の誘致などにより、住まいやすさを創出
- (5)土地区画整理事業の着実な施行
 - ◆土地区画整理事業により、都市基盤の整備や新たな宅地の供給が促進
- (6)緑地・農地の保全
 - ◆緑地・農地の保全により、緑豊かで良好な住環境が形成

■ 3 活発な交流の実現に関する施策

- (1)企業や大学などの誘致（重点施策）
 - ◆土地情報の提供やインセンティブの付与などにより、企業や大学などの誘致を促進
- (2)創業支援の充実（重点施策）
 - ◆資金融資のあっせんや創業相談などにより、企業の創業を支援し、新たな雇用を創出
- (3)公共施設の相互利用
 - ◆相互利用を促進することで、他市町の公共施設が一層利用しやすくなり、生活利便性の向上が期待
- (4)市・町民農園・観光農園・観光農業の充実（重点施策）
 - ◆「クラインガルテン」の設置や観光施策との連携により、都市農業を振興
- (5)観光情報の発信など
 - ◆狭山丘陵を中心とした回遊ルートの充実や観光情報の発信により、来訪者の増加が期待
- (6)レンタサイクルの整備など
 - ◆レンタサイクル施設等の整備により、広域的な回遊手段が拡充

出典：モノレール沿線まちづくり構想

(2) 東京都の計画

ア 未来の東京戦略 version up 2024(令和6年1月)

明るい未来の東京を切り拓くための都政の新たな羅針盤として、東京都が策定したものであり、多摩都市モノレール延伸部（箱根ヶ崎方面）のまちづくりに関する考え方方が示されています。

■戦略 17：多摩の自然や地域の特色を生かしたまちづくり

【多摩都市モノレール延伸部（箱根ヶ崎方面）沿線のまちづくり】

◆森に癒され子供が輝き、新たなライフスタイルを実現するまち

各駅の特徴を生かしながら、新たな暮らし方、働き方のモデルとなり、訪れる人を呼び込むまちを実現

- ・ワークスペース、ワーケーション施設の整備等により、多様な働き方を選べるまちを実現
- ・スマート農業の導入など、DX等を生かし、特徴ある地域産業でイノベーションを起こす
- ・インフラ・モビリティの整備や東京グリーンビズの推進等により、狭山丘陵等の自然に子供が触れ合い、グリーンツーリズムを楽しめる環境を整備

都市の機能を高め、世界を魅了

多摩の自然や地域の特色を生かしたまちづくり

戦略17

豊かな自然や産業、多様な魅力とポテンシャルを有する多摩地域において、TAMAプロジェクトを立ち上げ、拠点ごとの特徴を生かしたまちづくりや多摩都市モノレール延伸部沿線、立川周辺、多摩ニュータウンのまちづくりを、地元自治体と連携しながら推進

TAMA拠点形成プロジェクト

- ・ハートの取組に加えソフト面から地元自治体のまちづくりを支援し、身近な地域で誰もが活動でき快適に暮らせるまちを実現

TAMAまちづくり推進プロジェクト

- ・地元自治体などが進めるまちづくりとも連携して都がプロジェクトを推進し、広域的に連携する新たなまちの実現や首都東京のレジリエンス向上

TAMAニュータウン再生プロジェクト

- ・モデル地区での先行プロジェクトの実施により、まちづくりを先導し、地元自治体の取組を後押ししながら、多摩ニュータウンを再生

多摩都市モノレール延伸部（箱根ヶ崎方面）沿線のまちづくり

◆森に癒され子供が輝き、新たなライフスタイルを実現するまち

各駅の特徴を生かしながら、新たな暮らし方、働き方のモデルとなり、訪れる人を呼び込むまちを実現

- ・ワークスペース、ワーケーション施設の整備等により、多様な働き方を選べるまちを実現
- ・スマート農業の導入など、DX等を生かし、特徴ある地域産業でイノベーションを起こす
- ・インフラ・モビリティの整備や東京グリーンビズの推進等により、狭山丘陵等の自然に子供が触れ合い、グリーンツーリズムを楽しめる環境を整備



多摩都市モノレール延伸部（箱根ヶ崎方面）沿線のまちづくり

地域の特色を生かした拠点づくり

◆個性を生かし、活力に満ちたサステナブルなまち

八王子、町田、青梅など5か所で、様々な都市機能の集積を進め、身近な地域で誰もが活動でき快適に暮らせるまちを実現



- ・各拠点の個性に応じて3か年の実施計画を定め、地元自治体を支援
- ・まちづくりに取り組む自治体と大学や企業、NPO等のマッチングシステムを構築
- ・行政界をまたがる地域において、特徴を生かしたまちづくりを進めため、プロジェクトの立ち上げ等を支援

多摩ニュータウンのまちづくり

◆みどり豊かで誰もが活躍できるまち

住み方、働き方、デジタル技術などに関する新たな価値観を取り入れ、住・育・職が連携した次世代の中核的な拠点として再生



- ・永山駅周辺の高齢年化建築物の連鎖的建替えや多摩尾根幹線沿道の土地利用転換など、観訪・永山のまちづくりを推進
- ・駅周辺のインフラ改修や低未利用地の活用等により、多摩センター・駅周辺を再構築
- ・南大沢駅周辺で、産学官の連携や先端技術の活用により、持続可能なスマートシティを実現

立川周辺のまちづくり

◆利便性とレジリエンスを高め、人・モノが自由自在に交流するまち

民間の開発機会も捉え、防災活動の拠点となるまちづくりを都が展開し、首都東京のレジリエンス向上



- ・広域防災拠点へのアクセスストートとなる中央南北線（立川3・1・34号線）、立川東大和線（立川3・3・30号線ほか）等の事業推進
- ・広域防災拠点周辺の災害支援環境の整備化（物資輸送従事者の滞在待合施設の確保、次世代モビリティ等の端末交通の確保、民間施設への再生可能エネルギーの導入等）



個性を生かしながら活発な交流を促進し、活力とゆとりある持続可能な多摩を実現

出典：東京都資料

イ 多摩のまちづくり戦略(素案)(令和6年1月)

「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」で定めた将来像の実現に向けて、広域的なまちづくりの取組を示し、拠点などにおけるまちづくりの取組を推進しています。

「新規基盤連携型プロジェクト」として、多摩都市モノレールの延伸の機会を捉えたまちづくりの考え方やコンセプト等について、示されています。

■新規基盤連携型プロジェクト（多摩都市モノレール延伸部：東大和市・武蔵村山市・瑞穂町）

～森に癒され子供が輝き、新たなライフスタイルを実現するまち～

考え方

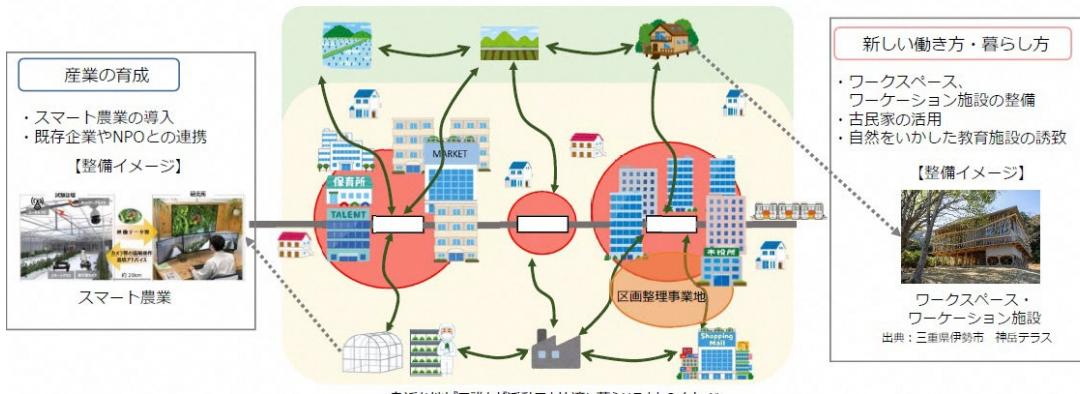
- 多摩都市モノレールは多摩を南北に縦断する交通ネットワークであり、多摩の成長に欠くことができない基幹的なインフラである。
- 多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面延伸の機会をとらえ、その延伸部において、狭山丘陵の緑豊かな環境や、食・農・工など特色ある地域産業を生かしたまちづくりを進め、多摩の魅力を引き上げることが重要である。
- 延伸部の開業も見据え、各駅の特徴を生かしながら沿線地域一体で広域的なまちづくりを地元市町とも連携して取り組み、「新しい暮らし方・働き方のモデルとなり、訪れる人を呼び込むまち」の実現を目指す。



まちの設計思想

設計思想① 駅周辺に商業、医療・福祉、サテライトオフィスなど様々な都市機能を集積

⇒ 暮らし、働く様々な人を呼び込み、持続的に発展するまちづくりに向けて、「身近な地域で誰もが活動でき快適に暮らせるまち」をカスタマイズ



設計思想② 駅と地域とをつなぐ都市空間を確保 ⇒ 地域内外の交流を支える自由に移動できるインフラとモビリティを標準整備



出典：東京都資料

※今後、設計思想の具体化に向けて検討を深化化。検討に当たり公有地などの活用も視野

93

第4章

(3) 武蔵村山市の計画

ア 武蔵村山市第五次長期総合計画(令和3年3月)

社会潮流の変化や複雑化・多様化する課題に的確に対応し、市民や事業者等との協働によるまちづくりを推進するため、今後 10 年間における行政運営の目標と基本的な方針、主要施策等を明らかにしています。

多摩都市モノレールの延伸等による若者の転出抑制効果や、モノレール沿線まちづくり構想を踏まえたまちづくりの推進等について示されています。

人口増加に向けた取組 ②若者の転出の抑制

多摩都市モノレールの延伸等による利便性の向上（延伸への期待を含む。）により、20歳代前半の各年齢の転出超過について、早期に解消する。

■第3節：地域交通の「モノレール推進」

【基本方針】

多摩都市モノレールについては、将来の需要創出につながるまちづくりも重要であることから、平成30年12月に東大和市及び瑞穂町と共同で策定した「モノレール沿線まちづくり構想」を踏まえたまちづくりを推進するとともに、導入空間ともなる新青梅街道の拡幅整備にあわせて、沿道まちづくりや土地区画整理事業を積極的に推進します。

イ 武蔵村山市第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和2年3月)

国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、本市の人口の現状及び令和 42（2060）年までを視野に入れた人口の将来展望を示す人口ビジョンを内包しつつ、将来展望の実現に向けた令和 2 年度から令和 6 年度までの施策の方向性と事業などを示しています。

■基本目標の構成

年少人口及び生産年齢人口の増加、若年世代の転出抑制、そして定住促進を実現するため、次の3つの視点に基づき、3つの基本目標を掲げます。

- 視点 1 本市への来訪者の増加を図る
- 視点 2 年少人口及び将来的な生産年齢人口の増加を図る
- 視点 3 住み続けたいと思うまちづくりを進める

基本目標 1：まちの魅力を向上させ、新たなひとの流れをつくる

基本目標 2：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

基本目標 3：誰もが安心して暮らし続けられる地域をつくる

ウ 武蔵村山市第二次まちづくり基本方針(令和5年3月)

多摩都市モノレールの延伸に関する事業や、立3・2・4号新青梅街道線の拡幅整備事業の進展及び市庁舎の移設など、新たな状況変化に対応していく必要があることから、新たなまちづくりの方向性を示し、その実現に向けた推進を図ることを目的として策定しました。

< 将来像 >

人と人、まちとまちをつなぐ みどり 豊かな活力あるまち

■重点テーマ1：多摩都市モノレール新駅を中心としたまちづくり

まちづくりの重点テーマとその方向性において、対象地区を以下のように位置付けています。

◆方向性1 市民が魅力を感じる新たな都市環境の創出

各駅周辺の特性を踏まえた商業施設や行政施設の立地誘導により、にぎわいと魅力のある中心市街地である都市核と、利便性の高い生活拠点であるサブ核や都市軸において、市民が魅力を実感できる新たな都市環境の創出を目指します。

◆方向性2 暮らしやすさを実感できる生活環境の形成

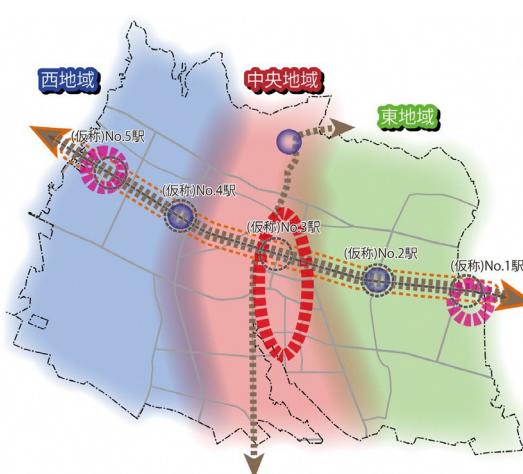
少子化や若者世代の流出などの課題に対応したまちづくりを進めるため、子育て支援施設の充実や身近な道路の安全性、利用しやすい公園・広場の整備などにより、安全な子育て環境の充実と形成を目指します。

高齢者や障害者のみならず、誰もが暮らしやすいユニバーサルデザインの視点に立った生活環境の形成などにより、暮らしやすさが実感できるまちづくりを目指します。

◆方向性3 身近な生活環境の安全性、利便性、快適性の向上

まちの特性をいかしつつ、狭い道路の整備等、身近な生活環境の課題を解決し、市民にとってゆとりとうるおいのある快適な環境の形成を目指します。

多摩都市モノレールを最大限にいかした誰もが利用しやすい公共交通ネットワークの形成により、周辺地域との様々なつながりが生まれ、安全で便利な歩いて暮らせるまちの実現を目指します。



< 地域の将来像 >

東 地 域：多世代がふれあい 交流とにぎわいがあるまち

中央地域：中心市街地として 持続的に発展するまち

西 地 域：水とみどりの中で集い にぎわいが生まれるまち

第4章

工 新青梅街道沿道地区まちづくり計画(平成 26 年 3 月)

「武藏村山市まちづくり条例」に基づき、まちの軸としての役割を担う新青梅街道とその沿道を積極的にまちづくりを推進する地区として、市民等との協働により、土地の効果的な利用や機能向上を図るためのまちづくりの方針・ルールなどを定めたものです。

■沿道地区まちづくり方針

【将来像】

人が集まり、人を呼び込む 新たな都市文化を発信する 魅力と活力のあるまち（沿道）

【まちづくりの目標】

◆にぎわいと活力のあるまちづくり

モノレールの延伸を実現し、多くの利用が得られるよう、人をひきつけ・人が集まる活気に満ちたまちづくりを目指します。

◆安心・快適な道づくり

歩行者、自転車空間など、誰もが安心快適に利用できる道づくりを目指します。

◆統一感のあるまちなみ景観づくり

狭山丘陵など周辺景観と調和した統一感とうるおいのあるまちなみ景観の形成を目指します。

◆災害に強いまちづくり

地震や火災など、災害に対して安全なまちづくりを目指します。

◆住み続けられるまちづくり

良質な都市型住宅の誘導と人にやさしい住環境づくりを進め、安心・快適に住み続けられるまちづくりを目指します。

2 社会情勢

本方針の策定に当たり、まちづくりを取り巻く社会情勢を把握し、沿線や駅周辺のまちづくりの検討に際して留意すべき点を整理します。

(1) 少子高齢化の進行

- 年少人口の割合は減り続けており、「子どもファースト」として、子育て世代に選ばれるまちづくりを進める必要があります。
- 未来の担い手となる子どもたちの視点に立って、まちづくりを考えていくことも重要です。
- 高齢者の割合は増加し続けており、今後も高齢化が進んでいく見込みであることから、高齢者が健康な生活を長く続け、不自由なく活動できるまちづくりを進める必要があります。

(2) ライフスタイルの多様化

- コロナ禍や働き方改革等の影響により、暮らし方・働き方の多様化進んでいることから、多様なライフスタイルを実現できるまちづくりを進める必要があります。

- ・ 自宅や職場・学校などとは異なる、多様な活動や交流、憩いの場となる第三の居場所（サードプレイス）づくりが求められています。

(3) 大地震や風水害への対応

- ・ 発生が危惧される首都直下地震等の大地震や、集中豪雨・台風等による風水害の頻発化に対応するため、駅を中心とした拠点づくりと合わせて減災施策に取組み、災害に強いまちづくりを進めていく必要があります。

(4) デジタル技術の発展

- ・ 急激に発展する情報通信技術（ICT）、人工知能（AI）、ビッグデータなどの先進的なデジタル技術を活用し、より複雑化するまちの課題解決や多様化する都市活動の効率化・最適化を図っていく必要があります。
- ・ 次世代モビリティや無人運転技術、MaaS 等の移動に関する技術を取り入れ、より効率的に移動できる環境の整備を進めていく必要があります。

※MaaS（一人ひとりの移動ニーズに対応し、複数の公共交通や移動手段を最適に組合せて検索・予約・決済をスマホアプリ等により一括で行うサービス）

(5) 地球温暖化対策と SDGs の取組

- ・ 近年、豪雨や台風などによる甚大な被害の発生や猛暑日数の増加が問題となっており、その主な原因とされる地球温暖化の進行は極めて深刻であり、本市では 2050 年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指すことを宣言しました。こうした中で、モノレールの延伸に合わせた公共交通利用促進のほか、地球温暖化対策の取組をより一層推進していく必要があります。
- ・ 国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の理念を踏まえ、本市においても将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていく必要があります。

＜持続可能な開発目標＞

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



出典：国際連合広報センター

3 市民等の声

令和4年10月に多摩都市モノレールの延伸計画等に関する素案説明会が開催され、駅の整備予定位置等が公表されたことを受け、多摩都市モノレール延伸後を見据えたまちづくりの参考とするため、様々な手段で市民等の声を聴取しました。

(1) 市民等アンケート

令和4年11月に、市民及び市外の方のまちづくりに関する意向を、アンケート形式で調査し、各設問に対する回答の中で、関心の高かった項目や自由意見を整理しました。

ア 重要だと思うテーマについて

【まちづくりのテーマ（上位7位）】

- ① 公共交通網の充実により快適に移動できるまちづくり
- ② 生活利便施設の集積による暮らしやすいまちづくり
- ③ 自然を活かし、自然とふれあうまちづくり
- ④ 震災・水害等の災害に強い防災まちづくり
- ⑤ 子育て支援施設等の整備により安心して子育てできるまちづくり
- ⑥ 誰もが円滑に移動し施設を利用できるユニバーサルデザインのまちづくり
- ⑦ 居心地がよく歩きたくなるウォーカブルなまちづくり

○その他の自由意見

「駅ごとにコンセプトを設けて魅力アップにつなげる」「ライフスタイルの変化を見据えたまちづくり」「子どもや若者が住み続けたいまちづくり」など

イ 施策の方向性（「交通」・「暮らし」・「交流」）について

【交通利便性の向上（上位3位）】

- ① 駅を中心としたバス路線の整備
- ② 駐輪場及び自転車走行空間
- ③ 安全で歩きやすい歩道

○その他の自由意見

「休憩、待ち合わせスペースの確保」「地域バスの充実」「バス路線の見直し」など

【良好な住環境の形成（上位3位）】

- ① スーパーマーケット
- ② 病院
- ③ 飲食店（食事の提供が主）

○その他の自由意見

「地域の産業を中心とした商店街」「規模の大きな文化施設や図書館」など

【活発な交流の実現（上位3位）】

- ① 公園・緑地
- ② イベント広場
- ③ 体育館・ジム等

○その他の自由意見

「若年層が行く施設」「キャンプができる施設」「みかん狩り農家の充実」「インスタ映えする施設」など

ウ 主な自由意見

- ・モノレール延伸の早期実現
- ・観光(狭山丘陵、かたくりの湯、遊園地や動物園、うどん、自然、大島紬)
- ・自然との触れ合い(キャンプ場、自然公園)
- ・交通利便性(乗換、駐輪場、エレベータの設置、駅までの交通手段など)
- ・商業施設(イオンモール、新たな商業施設)
- ・人の集い(大学誘致、公園整備)
- ・子育て(子どもの遊び場、通学)

○地域資源の活用に関する意見

- ・うどんのテーマパーク
- ・工場が多く立地しているので、工場体験などのイベントの実施
- ・駅周辺からイオンモールや武蔵村山病院などへのアクセスは重要
- ・ロケ地の利用促進
- ・子育てノウハウや地域での交流をもっと深めたら良い
- ・自然に触れられる観光をアピール(みかん狩り、お茶、織物、うどん、自然観察など)

○魅力向上に関する意見

- ・村山団地の商店街に店舗を誘致し、住みたくなる魅力アップ
- ・おすすめスポットをめぐる観光パンフレットの作成や道の駅
- ・楽しくすごせる公園。緑ある広い場所で春、夏、秋、冬、でイベントがあつたらよい
- ・宿泊と宿泊以外で利用できる拠点をモノレールの駅から近い場所に建設
- ・バリアフリーや温かみのある駅舎デザイン
- ・デイキャンプ場、スケボー場の併設
- ・車、バス以外の移動手段の充実
- ・買い物、飲食、娯楽が集積してあり、子どもも楽しめる公園



イベント時におけるアンケート実施状況

第4章

(2) 市民ワークショップ

まちづくりの検討にあたって、はじめに目指すべきまちの将来像を明確にし、共有していくことが重要であることから、まちの将来像等について話し合う市民ワークショップを令和5年6月から7月にかけて3回開催し、意見を踏まえて各駅周辺の将来像等を取りまとめました。

ア ワークショップ開催

第1回	令和5年6月17日（土）
テーマ	地域の課題と魅力
実施内容	地域の気になるところや魅力などを出し合い、意見交換を行った。



第2回	令和5年7月1日（土）
テーマ	まちづくりのテーマ・各駅周辺の将来像
実施内容	各駅周辺のまちづくりで重視すべきまちづくりのテーマについて、取組やアイディアを出しながら話し合い、将来像につながるキーワードを出し合った。



第3回	令和5年7月22日（土）
テーマ	各駅周辺の将来像・沿線全体の将来像
実施内容	第2回までの内容をふまえ、モノレール延伸時点における各駅周辺の将来像について意見交換を行った。 各駅周辺の将来イメージ図（ラフ案）について意見交換を行った。 最後に沿線全体の将来像について話し合った。



イ 意見のまとめ

①沿線全体：将来像（キャッチフレーズ）案

- モノレールで、30年後に文化が生まれるまち
- なんとなく心地よくゆるくつながるまち
- やっと駅ができた！ワクワクがとまらない！
- 駅ができるても自然や人の心は変わらないまち
- 武蔵村山の歴史・伝統・自然・人を守り育てる
- 元気な若者を育む東京の里山
- 戻ってきたくなる、また来たいと思うまち
- 沿線ぶらり途中下車で五感を磨く
- 乗って降りて歩いてまた乗って、まちの魅力発見しよう

②各駅周辺の将来像及び将来イメージ図

No.1 駅：“あの”武蔵村山へようこそ！

「あの鉄道のない市」という否定的なイメージをあえてキャッチフレーズに盛り込みました。市の玄関口という位置付けを踏まえ、多くの人に訪れて欲しいとの気持ちを込めて「ようこそ！」というフレーズを盛り込みました。

- ▶ 市の玄関口としてのまちづくり
- ▶ 商店街の活性化によるにぎわい空間
- ▶ 高層マンション
- ▶ 多世代が活き活き暮らせる空間
- ▶ 様々なアクティビティが可能な公園
- ▶ ひまわり畠など季節で楽しめるインスタ映えスポット
- ▶ 駅と団地や商店街を結ぶスローモビリティなどのネットワーク



No.2 駅：おせっかいがつなぐ灯(あか)るいまち

農を生かした様々な体験や、仕事帰り・学校帰りの人が集まる場等を通じて、おせっかいな人たちがここに来る人をつなぎ、おせっかいで成り立つようなまちになってほしいという思いをこめてキーワードを盛り込みました。商業施設が少なく夜は暗い現状を踏まえ、夜まで明るいまちにしたいという思いを込めて「灯」という言葉を使いました。

- ▶ 多世代が交流できる空間
- ▶ 農を生かした取組
- ▶ みかん狩りや狭山丘陵へのアクセス
- ▶ 安心して安全に楽しく移動できる歩行空間
- ▶ 北側沿道のにぎわい



第4章

No.3 駅:ここから広がるクロスポイント

人と人、人と自然、人と物が集まり、交差し、広がっていく中心地となるよう「クロスポイント」というフレーズを盛り込みました。

- ▶市の中心拠点としてのまちづくり
- ▶歩いて楽しいウォーカブルな空間
- ▶大型商業施設等とのアクセス
- ▶にぎわいのある駅前広場と公園
- ▶狭山丘陵へのアクセス
- ▶沿道のにぎわい
- ▶大きなイベントも開催可能な公園



No.4 駅:桜舞う憩いのまち

野山北公園自転車道の桜並木という地域最大の魅力を生かしたまちづくりをイメージしました。

自転車道を生かしたアクティビティやコミュニティの場を通じて、人々が憩えるまちづくりをイメージしました。

- ▶サイクリング・ラン&ウォーキングの拠点
- ▶野山北公園自転車道の活用
- ▶隠れ家的なカフェがあり、住み心地のよい住宅地の広がり
- ▶野山北公園自転車道と駅前空間とをスムーズに移動
- ▶バスなど移動手段の強化



No.5 駅:帰ってきたくなる緑のまち

子どもや学生が里山や残堀川などの豊かな自然の中で伸び伸びと育ち、大人になった時にまた帰ってきたくなるようなまちをイメージしました。

職場や学校などから帰ってきたときにはっとできるような、緑のある落ち着いたまちをイメージしました。

- ▶屋外ステージや残堀川の河川沿いのにぎわい
- ▶気軽に買い物・飲食できる店舗
- ▶地域資源の活用
- ▶図書館や様々な活動ができる多世代交流施設
- ▶大規模農地との連携
- ▶バスなど移動手段の強化



※各駅周辺の将来イメージ図は、市民ワークショップにていただいた意見や将来像をふまえて市で作成したものです。なお、本イメージ図は将来的な建築物及び道路等の配置を示すものではありません。

(3) 子どもたちの声

「まちづくり学習」等に参加し、本市の将来を担う子どもたちの意見を聴取しました。

ア 小学校におけるまちづくり学習

多摩都市モノレールの延伸計画及びまちづくり等に関する説明を行いました。

その後、子ども達の間で将来どのようなまちになってほしいか等に関する話し合いが行われ、取りまとめた結果に関する発表が行われました。

実施小学校 第二小学校（5年生）、第九小学校（6年生）、第一小学校（6年生）

① 第二小学校

対象	5年生
テーマ	武蔵村山市の「いいところさがし」
実施内容	<p>① モノレールの延伸計画やまちづくりの説明を聞いたうえで、武蔵村山市の良いところや好きなところをグループになって話し合い、発表しました。（令和5年6月）</p> <p>② 夏休みの間に、近くの大人に対してインタビューを行い、武蔵村山市の良いところについて調査をしました。（夏休み）</p> <p>③ 調べた良いところを生かして、将来どのようなまちになってほしいか考え、提案しました。（令和6年2月）</p>

①良いところ、好きなところ

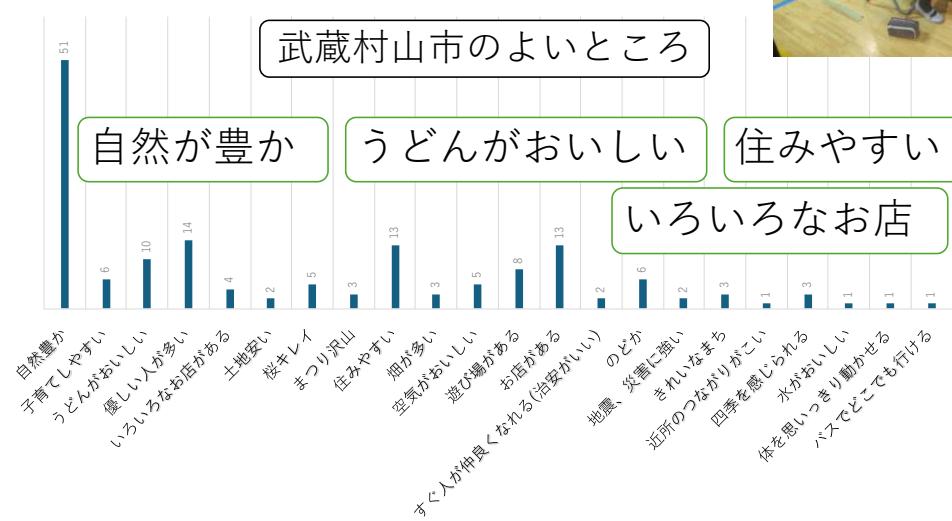
- ・自然が多く、食べ物がおいしい・遊ぶ場所が多い
- ・人が優しい、親切な人が多い
- ・文化・伝統がある など

②将来どんなまちになると良い

- ・自然がいっぱいにぎわいのある楽しいまち
- ・観光場所がたくさんある、人が多く来てくれるまち
- ・絶景スポットを広げたい など

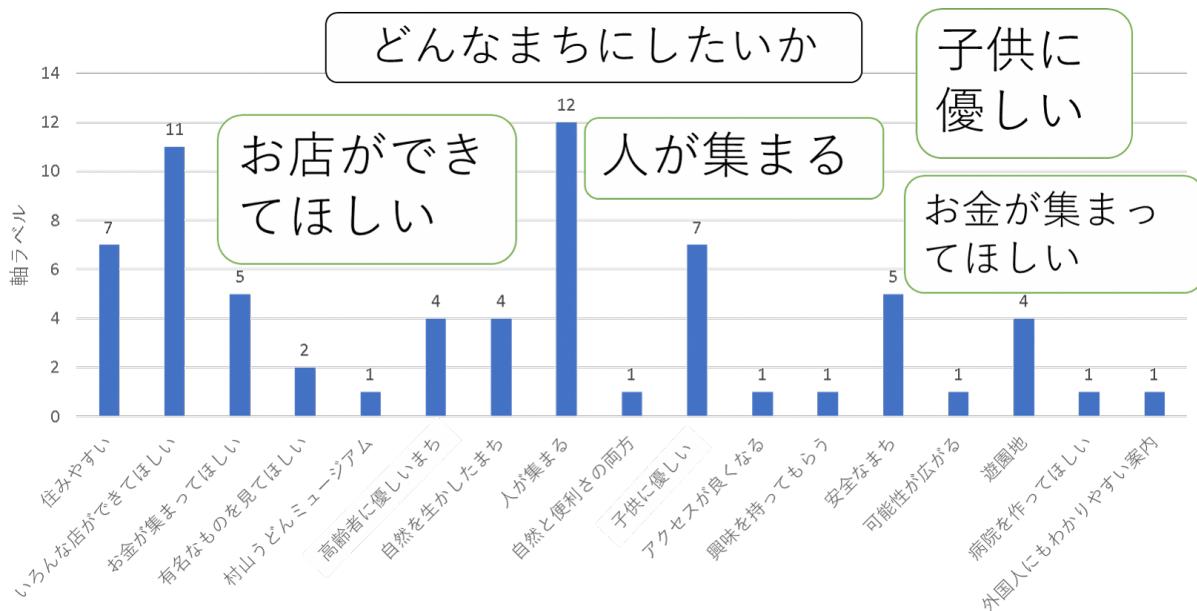
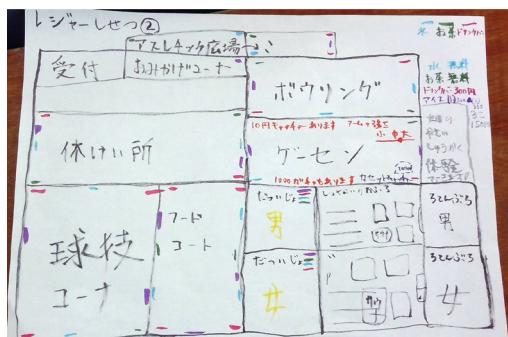


武蔵村山市のよいところ



③まちづくりの提案

- 駅前うどん店、うどんミュージアム
- スタンプラリー
- 武蔵村山を紹介するポスター
- 武蔵村山を知つてもらうゲーム
- 自然を生かしたお店作り
- 誰もが楽しめる遊園地
- アンテナショップ（かてうどんキット、ジャム等）
- かてうどんミュージアム
- レジャー施設（遊園地・ホテル）
- レジャー施設（複合娛樂施設）
- 猫カフェ・犬カフェ
- わくわくレストラン
- 外国人と障がい者に優しい町
- 長くいられて楽しめる自然公園



② 第九小学校

対象	6年生
テーマ	まちづくりの提案
実施内容	① 説明を聞いたうえで、将来どのようなまちになってほしいかを話し合い発表しました。 (令和5年11月) ② 市以外の方にも話を聞き、武蔵村山の良いところを調べ、学習発表会において劇という形で発表しました。 (令和5年11月)

①将来どのようなまちになってほしいか

- ・自然を増やしてほしい
- ・高すぎない緑化したビル（6階～10階程度）
- ・人は多すぎない方が良い（騒がしい）
- ・道路が狭いので広くなつて欲しい
- ・スーパー、コンビニ、カフェ
- ・武蔵村山の農産物を使ったレストラン
- ・人が集まる場所
- ・バリアフリー
- ・ボールを使って遊べる公園
- ・子育て世代にとって便利なまち
(きれいなトイレ、おむつが替えられる場所など)



②武蔵村山の良いところ

- ・かてうどん
- ・お茶
- ・みかん
- ・村山デエダラまつり
- ・村山大島紬
- ・横中馬獅子舞
- ・三本榎
- ・モノレールの延伸

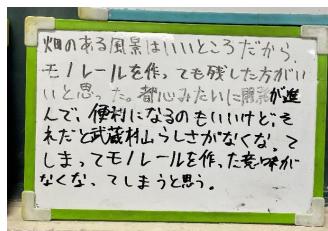
第4章

③ 第一小学校

対象	6年生
テーマ	まちづくりの提案
実施内容	<p>① 説明を聞いたうえで、武蔵村山市の良いところ等について話し合い、発表しました。（令和5年11月）</p> <p>② 出された意見を基に、将来どのようなまちになってほしいか検討し発表しました。（令和6年3月）</p>

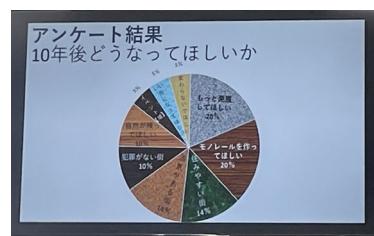
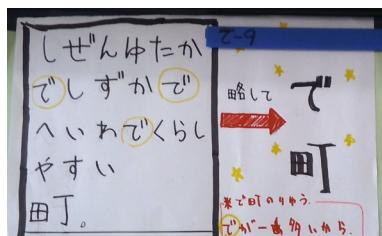
①特徴・良いところ・気になるところ

- 特徴：公園、住宅、食べ物屋、神社、畑、スーパー、老人ホームが多い、トンネル、狭山丘陵など
- 良いところ：自然がいっぱい、公園が広い、田舎で静か、商業施設が大きい、景色が良い、優しい人が多い、安全なまち、直売所があるなど
- 気になるところ：人が少ない、川が汚い、ごみが多い、遊具が少ない、友達の家同士が遠い、移動に時間がかかる、魅力がない、夜暗い、宿泊所がない、塾がないなど



②まちづくりの提案

- 自然豊かで、静かで、平和で、暮らしやすいまち「でまち」
- 山の中に公園をつくり、自然を生かしたイベントを行う。（自然を体験するツアー、高いところで遊べる遊具）
- 店が遠いので、気楽に買い物が出来るように店を増やす。
- 公園やスーパー、自然、飲食店が多いまち（イメージは吉祥寺）
- 武蔵村山の知名度を上げるために、賑やかなまちにしたい。（キャッチコピー、高いビル、豪華なホテル、エiffel塔などのランドマーク）
- 武蔵村山らしさを残しながら、明るくまた来たいと思えるようなまち
- 武蔵村山らしさを残したまちづくり（武蔵村山のキャラクターを利用して知名度アップ）
- 自然を残しつつ、近代化を進める。（手軽に農作業できる農具室、野菜の直売所）
- お店を増やして利便性を上げる。（特産品を扱うお店、川越のような昔風の街並み、景色の良いお店）
- 冬の祭りが無いので、ウィンターグルメフェスティバルを行う。
- 自然や魅力を残しつつ発展する武蔵村山（野菜、果物、山や古い建物を生かしつつ、マンション、商業施設を増やす。）



イ 高校生の意見

多摩都市モノレールの延伸計画及びまちづくり等について説明し、まちづくりの課題等についてアンケートを実施しました。

実施日	令和6年1月
実施高等学校	東京都立武蔵村山高等学校（1年生）



設問	主な意見
どのようなまちになつてほしいか	<ul style="list-style-type: none"> 広い道路や公共交通網が整備された移動しやすいまち 自然が豊かなまち 子どもが安心して遊べるまち 他の市からも人が来る様なまち 売りになる要素がないので、文化など推すことのできるものを育てる 大人から子どもが楽しめる遊び場などをつくる 温かく活気のあるようなまち モノレールを使って行き来できるまち 犯罪も事故もない安全なまち 行事に力を入れて興味を持ってもらえるまち
まちづくりの提案	<ul style="list-style-type: none"> チラシやポスター、インターネット、イベントなどで声掛けをして市民のまちづくりに対する意識を変えていく 公園の遊具を増やし、ボールの使用を可能にする モノレールの周りに観光名所をつくる 市内限定のポイントアプリをつくる 自然も残しつつ街を便利にしていく 夜、道路が暗いので街灯を増やす 売りにできるものを育てる 歩道を広げ、歩行者や自転車が通りやすくする 交通手段を増やす 娯楽施設を増やす 恐竜レースみたいなミニ運動会 残堀川をきれいにするなど

第4章

(4) 事業者等の意見

商工会、観光まちづくり協会及び村山医療センター等の団体・事業者からいただいた、モノレールの延伸事業に期待していることや懸念していること等の意見を整理しました。

分野	主な意見
地域資源	<ul style="list-style-type: none">・かたくりの湯周辺は一体的に整備し、観光拠点とすべき・狭山丘陵は緑の中で色々な体験ができる貴重な場であり、積極的に利活用していくべき・パラリンピックや障がい者スポーツの拠点としてはどうか（No.2駅）・モノレール延伸を契機とした商店街の盛り上げを行うべき（No.1駅）
移動・交通	<ul style="list-style-type: none">・駅周辺に駐輪場を整備してほしい・駅から主要施設までの移動環境の向上（バリアフリーなど）
まちの活性化	<ul style="list-style-type: none">・モノレールの延伸による人口増加や雇用促進に期待している・市外の人が市内で働きやすくなるよう宿泊施設を設置してほしい・市外の人を呼び込む施策を考えてほしい・人を呼び込むためには話題性も大事、目で見て楽しめるものがSNSで広く拡散されると良い・立7・4・2号沿道の用途地域を変更し、核となる地区をつくってほしい（No.3駅）・工業地域で働いている人のため、西武線、伊奈平、モノレールを結ぶバスがあると良い（No.3駅）・沿線の容積率を上げることを検討してみてはどうか
まちづくりの進め方	<ul style="list-style-type: none">・事業の進め方を検討するため、早めにまちづくりの方針を決めてほしい・延伸を見据えて一体感のあるまちづくりを進めるべき・まちのブランディング・イメージ付けを行うべき・開業区間の各駅と差別化を図ったまちづくりを進めるべき